ユーザーズ・マニュアル

# \_KEYLAB MK3



<u> </u>			
Frédéric BRUN			
プロジェクト・マネ	ジメント		
Nicolas DUBOIS			
	メント		
	Earlie MEZDOUR		
	Tales MEZDOOK		
デザイン			
<u>))</u> ]/			
Morgan PERRIER	Alexandre BARBIER	Agustina PASSERON	
ファームウェア			
Pierre DECHERF	Olivier DELHOMME	Sylvain MAVON	Thibault SENAC
ハードウェア			
Loïc BRUNET			
生産技術			
Jérôme BLANC	Rita HUNG	Maxime PERRIER	
Antonio EIRAS	Nadine LANTHEAUME		
MIDI CONTROL CEN	TER アプリケーション		
Timotháo REHETV			
旦啠			
Emilie JACUSZIN			
<u> </u>			
Bastien HERVIEUX (lead)	Anthony LE CORNEC	Enrique VELA	Nicolas NAUDIN
Aurélien MORTHA	Germain MARZIN	Félix ROUX	Rémi PELET
ユーザー・マニュア			
Sven BORNEMARK (author)	Ana Artalejo (スペイン語)	Charlotte Métais (フランス語)	
Jimmy MICHON	Minoru Koike (日本語)	Holger Steinbrink (ドイツ語)	
ベータ・テスティン	グ		
Andrew MACAULAY	Are LEISTAD	Terry MARSDEN	Mathias CLAVEAU
Andrew HENDERSON	Marco CORREIA Koshdukai	Jeff STONELEY	Richard COURTEL

© ARTURIA SA – 2024 – All rights reserved. 26 avenue Jean Kuntzmann 38330 Montbonnot-Saint-Martin FRANCE www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについて Arturia は何ら責任を負いません。 許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供 給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお 客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部を Arturia S.A. の明確な書面による許 可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者に帰属する商標または登録商標です。

#### Product version: 1.0.0

Revision date: 30 September 2024

# Arturia KeyLab mk3 をお買い上げいただき誠にありがとうござ います!

本マニュアルでは、Arturia のパワフルなキーボードコントローラー **KeyLab mk3** を最大限にご活用いた だけるように、その機能と使用法をご紹介します。ライブツアーでも、レコーディングスタジオでも、あ るいはホームスタジオでも、お使いの機材の中で KeyLab mk3 が不可欠なものになることを革新しており ます。

本機のパッケージ内容は次の通りです:

- KeyLab mk3 キーボードコントローラー本体
- USB-C → USB-A ケーブル
- 製品登録カード:このカードは、本機を www.arturia.com で製品登録される際、そして付属ソフトウェアのアクティベーション時に必要となります (以下をご覧ください)。

できるだけ早めに製品登録をお願いいたします! KeyLab mk3 本体底部にシリアルナンバーを記載した ステッカーが貼ってあります。このシリアルナンバーは、オンラインでの製品登録時に必要となります。 また、本機が破損した場合に備えて、シリアルナンバーをメモしておくか、写真に撮っておくことをお勧 めします。

KeyLab mk3 を製品登録することにより、以下のソフトウェアすべてをご使用になれます:

- Analog Lab Pro
- Mini V
- Piano V
- Augmented STRINGS
- Rev PLATE-140
- Ableton Live Lite
- Native Instruments The Gentleman
- Melodics サブスクリプションとボーナスレッスン
- Loopcloud サブスクリプションとサウンド

#### **MIDI Control Center**

MIDI Control Center は、Arturia Downloads & Manuals から無償でダウンロードできます。KeyLab mk3 の詳細設定を行う際に必要となるアプリケーションですので、この機会にぜひインストールしてください。

#### **Arturia Software Center**

Arturia Software Center は、Arturia アカウントのリモートクライアントで、すべてのライセンス、ダウ ンロード、アップデートをワンストップで管理でき、非常に便利です。つまり、お持ちの Arturia プラグ インの管理を一手に引き受けるアプリケーションです。

Analog Lab のインストール時に Arturia Software Center もインストールされます。

Arturia Software Center は、こちらのページからも入手できます:Arturia Downloads & Manuals

Arturia Software Center は、このページのトップ付近にあります。お使いのシステム (Windows または macOS) に合ったインストーラーをダウンロードしてください。

Arturia Software Center をインストールしましたら、次の操作を行ってください:

- Arturia Software Center (ASC) を開きます。
- ASC の画面から、お持ちの Arturia アカウントでログインします。
- ASC の画面の「My Products」セクションまでスクロールします。
- 有効にしたいソフトウェア (今回の場合は Analog Lab) の隣りにある「Activate」ボタンをク リックします。

これで準備完了です!

KeyLab mk3 は使いやすく、開封後すぐに使い始めることができるかと思いますが、こうした機器を使い 慣れている方でも、本機を最大限に活用できる便利なヒントが数多く記載されていますので、本マニュア ルをぜひご一読ください。

KeyLab mk3 がお使いの機材セットの強力なツールとなることを確信しています。

# 使用上のご注意

#### 仕様変更について:

本マニュアルに含まれる情報は、本マニュアルの制作時点では正確な情報ですが、改良等のために仕様等 を告知なく行う場合があります。

#### 重要:

本機とその関連ソフトウェアは、ヘッドフォンとスピーカーの両方、またはどちらか一方を使用して、聴 覚障害を起こすほどの大音量に設定出来る場合があります。そのような大音量や不快に感じるほどの音量 で長時間本機を操作、演奏しないでください。

難聴、もしくは耳鳴りなどを自覚した場合には、直ちに医師の診断を受けてください。

#### 注意:

本機の機能や特徴がどのように動作するか(本機が設計通りに動作している場合)に関する知識不足のために発生したサービス料金は、メーカー保証の対象外となりますので、所有者ご負担となります。修理を 依頼される前に、本マニュアルをよくお読みになり、お買い上げの販売店にご相談ください。

#### 注意事項には以下のものが含まれますが、これらに限定されるものではありません:

- 1. 取扱説明書をよく読んで、理解してください。
- 2. 取扱説明書に記載の指示、楽器本体に表示されている指示に従ってください。
- 3. 本機のお手入れの際は、まず電源や USB 等全てのケーブルを外してください。また、清掃の 際は、乾いた柔らかい布を使用してください。ガソリン、アルコール、アセトン、テレピン 油その他有機溶剤は使用しないでください。液体クリーナー、スプレー洗剤、濡れ布巾など も使用しないでください。
- 本機を浴室やキッチンシンク、水泳プールまたはそれらに準じた水の近くや多湿な場所で使 用しないでください。
- 5. 本機を落下の危険性がある不安定な場所に設置しないでください。
- 6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機の開口部や通気孔等を塞がないでください。これらは、過熱から本機を守るための空気の循環用のものです。また、本機を発熱体の近くや、風通しの悪い場所に設置しないでください。
- 7. 本機を開けたり異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 8. いかなる液体も本機にこぼさないでください。
- 修理の際は正規サービスセンターにご依頼ください。お客様ご自身で蓋やカバーを開けると 保証の対象外となり、正規の手順に依らない組み立てや動作試験を行うと感電や別の故障の 原因になる場合があります。
- 10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても感電の恐れがあります。
- 11. 本機を直射日光に当てないでください。
- 12. ガス漏れが発生している場所付近で本機を使用しないでください。
- 13. Arturia は本製品の不適当な使用方法に起因する故障、破損、データ損失に責任を負いません。

# はじめに

#### Arturia KeyLab mk3 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます!

KeyLab mk3 は、あらゆるソフトウェアインストゥルメントや DAW のパワーを活用できる、クラスコン プライアント MIDI コントローラーキーボードです。本機は、ワークフローを向上できるように設計され ていますので、コンピュータ周辺機器を使用する時間を低減し、音楽制作に集中することができます。 KeyLab mk3 は、Arturia Analog Lab ソフトウェアとシームレスに統合でき、大量のインストゥルメント から2.000種類以上ものプリセットを瞬時に使用することができます。

KeyLab mk3 の主な特長:

- あらゆる MIDI ソフトウェア、プラグイン、機器と使用可能。
- ランダムモードを内蔵したアルペジエイターを搭載。
- ユーザーコードやストラミング機能を内蔵したコードモードを搭載。
- Ableton Live、Bitwig Studio、Cubase、FL Studio、Logic Pro との完全統合が可能。
- 主要 DAW のほとんどに対応したトラックとトランスポートコントロール機能を内蔵。
- Analog Lab のプリセットから欲しい音色を瞬時にサーチ可能な高速ソート機能を内蔵。
- 49鍵と61鍵バージョンをラインナップし、どちらもベロシティおよびプレッシャー (アフタ ータッチ)に対応したカスタムメイド・キーボードを搭載。
- 楽曲のキーに沿った演奏が可能なスケールモードを内蔵。
- ピッチベンドとモジュレーションホイールを装備。
- 9個の MIDI アサイン可能なエンコーダー、9本のフェーダー (すべて機能の割当が可能)、 Analog Lab に特化した設定を内蔵した RGB ボタンを装備。
- ベロシティ、プレッシャー (チャンネルアフタータッチ)対応の RGB バックライト付きパッドを12個装備。
- MIDI Control Center との併用により、各コントロールへの機能割り当てや本機のグローバル 設定の編集が可能。
- 大型 TFT ディスプレイを装備。
- 接続端子: MIDI In/Out、USB、サステインペダル、エクスプレッションペダル、AUX ペダル

Arturia ウェブサイト をぜひご活用ください。最新ファームウェアのチェックや MIDI Control Center のダ ウンロード、チュートリアルや FAQ (よくある質問) をご覧になれます。KeyLab mk3 が、あなたの音楽制 作を次のレベルへつなげる一助になることを確信しております。

より豊かな音楽ライフを

#### The Arturia team

# 目次

1. 使	『い始める	3
	1.1. KeyLab mk3 の接続	3
	1.1.1. USB の接続	3
	1.1.2. MIDI 経由での接続	3
	1.2. フロントパネルのレイアウト	3
	1.3. 電源投入時のプログラムを選択する	4
	1.4. フロントパネルの左側	5
	1.5. フロントパネルの右側	6
	1.6. リアパネル	7
2.才	・ーバービュー	8
	2.1. スタートアップ・プログラムの選択	8
	2.2. キーボード	9
	2.2.1. MIDI チャンネルの変更	9
	2.3. ピッチ & Mod ホイール	10
	2.4. トランスポーズ	10
	2.4.1. トランスポーズの解除	10
	2.5. オクターブシフト	11
	2.5.1. オクターブシフトの解除	11
	2.6. Bank	11
	2.7. Settings	11
	2.8. Program	12
	2.9. MIDI チャンネル	12
	2.10.パッド	13
	2.11. ホールド機能	14
	2.11.1. パニックメッセージの送信	14
	2.12. コード	15
	2.12.1. プリセットコードの演奏	15
	2.12.2. コードモードの動作の仕組み	16
	2.12.3. Chord ボタンを使用してコードを作成する	17
	2.12.4. コードエディットモード	17
	2.13. スケール	19
	2.13.1、スケールモードを使用する。	20
	2.13.2. オリジナルスケールを作成する	21
	214 アルペジェイター	22
	2.14.1. アルペジェイターを使用する	
	2.14.2. アルペジオのエディット	23
	2143 ランダムモードを使用する	24
	215 DAW コントロール	26
	2151 DAW コーティリティ・コントロール	20
	2152 DAW トランスポート・コントロール	21
	2.15.2. DAW の万地性	21
	215.5. 5. W 012 (FIL)	20 ວດ
	21-10. フィーハフレー C C ジョン・ローフレー	∠9 20
	2162 メインエンコーダー	<u>ر د</u> ۱۲
	2.10.2. ストノエンコーン	30
	2.10.5 back かジノ	
	2.11.エノコーダーとフェーダー	21
	2,10, イー小ート	21
	2.10.1 イーケートのシュールを変更する	32 20
2 1	2.13. リアハネルの投影地面丁 turia Drogram	32 22
5. AI	21 Analas ab との接続	22
	3.1. Androg Lab のプリセットを溜加する	22
	5.1.1. Finalog Lab のノフビッドで進行する	აპ ვი
	3.4. ノノフルヒキルノフリビツト	0C 27
	32.1. ノッヒッドモノ1ルラリノフッタ	، د مد
	3.2.2. ノリセットエテイツトペーン	38
	3.2.3. ノソゼットのエデイツト	39
	3.2.4. マルテノリゼットのハートのエテイット	40
	3.2.3. ヤー小一ド設定のエテイツト	40
	3.2.6. マルナノリセットについて	41
	3.2.1. マルテノリゼツトをTFRU 9 る	41

4. DAW Program	45
4.1. DAW プログラムの概要	45
4.2. DAW プリセットの選択	46
4.2.1. 対応 DAW のリスト	
4.2.2. DAW 側の準備	
5. User Program	48
5.1. コンセプト	48
5.2. User プログラムの選択	48
5.3. User プログラムの管理	48
5.4. User プログラムのエディット	48
5.4.1. User グローバル設定	
5.4.2. Keyboard Settings - キーボード設定	55
5.4.3. Velocity Curve	56
5.4.4. Aftertouch Curve	56
5.4.5. Aftertouch Minimum Value	56
5.4.6. Aftertouch Maximum Value	56
5.4.7. Aftertouch Sensitivity	56
5.4.8. Wheels Settings in User Program - User プログラムでのホイール設定	57
5.4.9. Pedals Settings in User Program - User プログラムでのペダル設定	58
5.4.10. Encoders Settings in User Program - User プログラムでのエンコーダー設定	59
5.4.11. Faders Settings in User Program	63
5.4.12. Pad Settings in User Program - User プログラムでのパッド設定	65
5.4.13. User Buttons in User Program - User プログラムでの User ボタンの設定	68
6. MIDI Control Center	
6.1. MIDI Control Center への接続	70
6.1.1. デバイスメモリー	
6.1.2. ローカルテンプレート	
6.2. MCC コントローラーマップ	71
7. 規制関連情報	72
7.1. FCC	72
7.2. カナダ	72
7.3. CE	72
7.4. ROHS	72
7.5. WEEE	73
8. ソフトウェア・ライセンス契約	74

# 1.1. KeyLab mk3 の接続

本マニュアルをお読みなる前に、Analog Lab とその他の付属ソフトウェアをインストールされることを お勧めします。また、Arturia ウェブサイトでソフトウェアの製品登録をオーソライズも忘れずに行って ください。

#### 1.1.1. USB の接続

KeyLab mk3 とお使いのコンピュータを付属の USB ケーブルで接続します。この接続で KeyLab mk3 への電源供給と MIDI メッセージの送受信が行えます。

KeyLab mk3 はクラスコンプライアント USB デバイスですので、Mac でご使用の場合は接続時にドライ バーが自動的にインストールされます。電源投入後、数秒ですぐにお使いいただけます。

Windows の場合:KeyLab mk3 で Analog Lab や DAW を操作するには、Analog Lab のインストール時に同時にインストールされる Arturia USB MIDI Driver が必要です。

#### 1.1.2. MIDI 経由での接続

コンピュータと接続していない状態で KeyLab mk3 を外部 MIDI 機器に接続したい場合は、パワーサプライ (別売:DC12V、1.0A) をご使用ください。

KeyLab mk3 の MIDI Out と外部 MIDI 機器の MIDI In を MIDI ケーブルで接続します。そこからさらに別 の MIDI 機器ヘデイジーチェーン式に MIDI ケーブルで接続することができます。また、MIDI パッチベイを 使用する方法もあります。接続した各 MIDI 機器間を MIDI メッセージを通過することで累積しうる遅延を 抑えることができます。

KeyLab mk3 は、MIDI 端子と USB ポートの両方から MIDI メッセージを同時に送信できます。

# 1.2. フロントパネルのレイアウト

KeyLab mk3 には4種類のバージョンがあります。



49鍵モデルにはブラックとホワイトバージョンがあります



61鍵モデルにもブラックとホワイトバージョンがあります

49鍵と61鍵モデルは機能的には同一ですが、49鍵モデルは、61鍵モデルに対して物理的なパネルサイズ が小さいため、一部のボタンと2つのホイールがキーボードの左側に配置されています。

# 1.3. 電源投入時のプログラムを選択する

KeyLab mk3 の電源を最初に入れると、下図のウェルカム画面が表示されます。



- User: KeyLab mk3 の各種機能をカスタマイズして、あらゆる機器をコントロールできるようにするプログラムです。
- Arturia: Analog Lab や V Collection のインストゥルメントをコントロールするプログラム です。
- DAW: KeyLab mk3 からレコーディングソフトウェア (DAW) を操作するためのプログラムです。

各プログラムの詳細は後述します。現時点では、Arturia を選択して Analog Lab のプリセットを演奏して みることからスタートすることをお勧めします。メインエンコーダーを回して Arturia プログラムを選 び、メインエンコーダーを押すとそのプログラムがロードされます。Analog Lab のプリセットも同様 に、メインエンコーダーを回してプリセットを選び、エンコーダーを押すとそれがロードされます。

# 1.4. フロントパネルの左側

KeyLab mk3 のフロントパネル左側を見ていきましょう。



1. Transpose +/- & Octave +/- : これらのボタンでトランスポーズ (移調) とオクターブシフトを設定します。

- Mod ホイール: 音色にピッチベンドとモジュレーションをかけるときに使用します。
- Bank +/-: パッドのバンクを切り替えるボタンです。
- Settings: KeyLab mk3 の内部設定に入るボタンです (ユーザーモードで機能をカスタマイ ズできます)。
- Program:このボタンでプログラムメニューに入ります。ここでプログラムの作成や管理、 ロードを行えます。
- MIDI Ch:このボタンを押しながらキーボードの最低音から16個のキーでユーザー MIDI チャンネルを選択できます。

2. パフォーマンスパッド: このパッドで DAW 内のサンプルのトリガーやソフトウェア/ハードウェアイン ストゥルメントでコードを演奏したり、ポリフォニックアフタータッチ(個々のパッドがプレッシャーセ ンスに対応しています) などの MIDI メッセージを送信したりすることができます。各パッドはモードごと に個別に設定できます。

3. MIDI エフェクト & DAW コントロール:このエリアにはコードモードやホールド機能、スケールモード やアルペジオといった MIDI エフェクトを使用するためのボタンがあります。下段には、DAW のトランス ポートコントロールのためのボタンがあります。

# 1.5. フロントパネルの右側

続いてフロントパネルの右側を見ていきましょう。



4. コンテクストボタン:このエリアの8つのボタンは、ディスプレイに表示される機能を使用するときに使用します。各ボタンの機能は、ディスプレイに表示されます (ディスプレイの表示内容によって変わります)。

- ディスプレイ: KeyLab mk3 の各種メニューや機能を表示し、わかりやすい操作が可能な便利なディスプレイです。
- メインエンコーダー:最もよく使われるのが、このメインエンコーダーです。メインエンコ ーダーを回してパラメーターやオプションなどを選択したり、設定値の変更に使用します。 このエンコーダーを押すことで選択を確定させたり、押し回しで MIDI CC を送信したりする ことができます。
- Back:前の画面に戻るときなど、KeyLab mk3の画面ページ移動に使用します。

5. エンコーダー: ソフトウェアインストゥルメントのパラメーターの調整や、DAW のトラックのパンニング調整のほか、さまざまなソフトウェやハードウェア、DAW の操作に使用します。

- フェーダー:ソフトウェアインストゥルメントのその他のパラメーターや、DAWのトラックのボリュームのほか、さまざまなソフトウェア、ハードウェア、DAWの操作に使用します。
- 6. キーボード:ベロシティ、アフタータッチ対応の49鍵または61鍵キーボードです。

】♪ KeyLab mk3 のほとんどのコントロール (エンコーダーやフェーダーなど) は、ユーザーエディットモードや MIDI Control Center [p.70] で任意の MIDI メッセージに割り当てることができます。

# 1.6. リアパネル

KeyLab mk3 のリアパネルには下図のような接続端子があります。



- AUX、Expression、Sustainペダル端子:AUXペダル端子には、プログラムチェンジやノートコマンドなどさまざまな MIDI メッセージ (連続可変のものもスイッチ的動作のものも)を割り当てることができます。Expression 端子には通常、エクスプレッションペダルなどの連続可変のペダルを、Sustain 端子にはサステインペダルなどオン/オフ切り替えタイプのペダルを接続します。
- MIDI In/Out: MIDI Out 端子から外部機器へ MIDI メッセージを送信します。KeyLab mk3 をコンピュータに接続していない場合も、パワーサプライ (別売) で KeyLab mk3 に電源を 供給した上で、この端子から MIDI メッセージを送信できます。MIDI In 端子は、外部機器か ら MIDI メッセージを受信するときに使用し、DAW から USB-MIDI インターフェイス経由で MIDI メッセージを受信するときもこの端子を使用できます。
- 電源コネクター&USB ポート: KeyLab mk3 をコンピュータと接続せずに使用する場合は、 この電源コネクターにパワーサプライ(別売:DC12V、1.0A)を接続します。USB-C ポート は、本機とコンピュータを接続するときに使用します。このポートで電源供給と MIDI メッ セージ、コントロール情報の送受信が行えます。

# 2. オーバービュー

このチャプターでは、KeyLab mk3 のさまざまな機能や MIDI エフェクトについてご紹介します。Analog Lab のコントロールや User プログラム、DAW モード、MIDI Control Center を使用した各種設定などにつ きましては、別のチャプターでご紹介します。

# 2.1. スタートアップ・プログラムの選択

KeyLab mk3 に最初に電源を入れると、下図のようなウェルカム画面が表示されます。



- User:コントロール機能をカスタマイズする User プログラムを作成できます。
- Arturia: Analog Lab や V Collection のインストゥルメントを操作するときに使用するモードです。
- DAW:レコーディングソフトウェアを KeyLab mk3 から直接コントロールすることができます。

】 ♪ このスタートアップ画面は、画面右下にあるブルーのスイッチをオフにすることでスキップできます (オン/オフ 切り替えは、8番目のコンテクストボタン (ディスプレイの下) で行えます)。

各プログラムの詳細は後述します。現時点では、Analog Lab などの音色を演奏するための Arturia を選択 することをお勧めします。プリセットは、メインエンコーダーを回して選択し、メインエンコーダーを押 すと選択が確定してそのプリセットがロードされます。また、ディスプレイの右下にある上下の矢印ボタ ンでプリセットを切り替えることもできます。

Analog Lab などのバーチャルインストゥルメントがスタンドアローンモードで動作している場合、その インストゥルメントの MIDI 設定 (Analog Lab の場合は Audio MIDI Settings) で MIDI コントローラーを KeyLab mk3 に設定してください。

× Audio MIDI Settings			
Audio Settings Adjust the audio settings to your setup.		III MIDI Settings Select the MIDI ports to use your controllers.	
Audio Driver Audio Device	<ul><li>◆ CoreAudio</li><li>◆ MiniFuse 4</li></ul>	MIDI ports MiniFuse 4 KeyLab 49 mk3 MIDI KeyLab 49 mk3 DAW	
Output channels	Main Output Left + Right Aux Output Left + Right LOOPBACK Left + Right	Tempo 30.0 BPM - +	
Input channels	MIC/LINE/INST 1 MIC/LINE/INST 2 LINE 3		
Buffer size	♦ 64 samples (1.5 ms)		
Sample rate	<b>\$</b> 44100 Hz		
Test Audio ◀୬	Play	ОК	

Analog Lab や、コントロールしたいソフトウェアが DAW (Cubase、Studio One、Ableton Live など) の プラグインとして動作している場合は、DAW の設定 (プリファレンスなど) を開いて、コントローラーを KeyLab mk3 に設定してください。



# 2.2. キーボード

KeyLab mk3 は、ベロシティとリリースベロシティの両方と、プレッシャー (アフタータッチまたはチャ ンネルアフタータッチとも呼ばれます)に対応した、シンセアクションのキーボードを搭載しています。

#### 2.2.1. MIDI チャンネルの変更

KeyLab mk3 の MIDI チャンネルは、**MIDI Ch** ボタンを押しながらキーボードの **最低音から16個のキー** を 押して変更できます。MIDI チャンネルを変更すると、ユーザー MIDI チャンネルに設定されているすべて のコントロールが変更後の MIDI チャンネルに切り替わります。

例えば、KeyLab mk3 の送信チャンネルを8に変更するときは、MIDI Ch ボタンを押しながらキーボードの一番低い G のキーを押します。

# 2.3. ピッチ & Mod ホイール

この2つのホイールで、演奏している音色にピッチベンドとモジュレーションをリアルタイムにかけるこ とができます。



ピッチホイールを上や下に動かすと、演奏している音色の音程が高くなったり低くなったりします。この ときの変化幅は、コントロールされるハードウェアやソフトウェアインストゥルメント側で設定します。 このホイールは、User プログラムごとにオフにすることもできます。

Mod (モジュレーション) ホイールを上げると、演奏している音色にモジュレーション (変調) が深くなって いきます。このときの反応の仕方は、インストゥルメント側の設定や、KeyLab mk3 での設定によって変 わります。デフォルトでは、Mod ホイールは MIDI CC#1 にアサインされていますが、User プログラムモ ードまたは MIDI Control Center で変更できます。

📃 ♪ ピッチホイールは別の MIDI メッセージに変更することはできません。

# 2.4. トランスポーズ

トランスポーズは、キーボードの音程を半音単位でシフトさせ、さまざまなキーの楽曲を簡単に演奏でき る機能です。



音程を下げる方向にトランスポーズするには、**Trans**- ボタンを押します。ボタンを押すごとに音程が半 音ずつ下がります。例えば、C から A にトランスポーズするには、Trans- ボタンを3回押します。同様 に、**Trans+** ボタンを押すと音程が上がる方向にトランスポーズします。

Trans-、Trans+ボタンを押すと、そのときのトランスポーズの状態がディスプレイに表示されます。

# 2.4.1. トランスポーズの解除

トランスポーズを解除するには、Trans-と Trans+ボタンを同時に押します。

# 2.5. オクターブシフト

オクターブシフト機能は、プリセットをキーボードで演奏する音域を変更したり、プリセットの発音域を 一時的に拡張したいときに便利です。



**Oct-** または **Oct+** ボタンを押すと KeyLab mk3 のキーボードで引く音程がオクターブ単位で変化し、より 高い音域やより低い音域を演奏できます。

Oct-、Oct+ボタンを押すと、そのときのオクターブシフトの状態がディスプレイに表示されます。

#### 2.5.1. オクターブシフトの解除

オクターブシフト機能を解除し、KeyLab mk3 のキーボードで演奏する音域を通常の状態へ瞬時に戻すには、Oct-と Oct+ボタンを同時に押します。

#### 2.6. Bank

パッドのバンク (A-D) の切り替えには、**Bank-** と **Bank+** ボタンを使用します。User プログラムモード では、パッドの動作をサンプルのトリガーか DAW の機能の操作、またはポリフォニックアフタータッチ (パッドはプレッシャーセンス対応です) などの MIDI メッセージの送信に設定できます。個々のパッド は、モードごとに動作を設定することができます。

#### 2.7. Settings

Arturia と DAW プログラムモードでは、グローバルパラメーターの詳細設定が行えます。User プログラ ムを使用しているときは、2つのホイールやペダル、エンコーダー、フェーダー、パッド、ボタンの機能 を設定できます。



ここで使用したいプログラムモード (Arturia、DAW、User) を選択します。各ボタンを長押しすると、そ れぞれのプログラムの内容をエディットできます。

ユーザー (User) プログラムでは、プログラムのリネーム、削除、コピー、スワップ (入れ替え) をすることができます。



- User [p.48]: KeyLab mk3の各コントロールを自由にカスタマイズすることができます。
- Arturia [p.33]: Analog Lab や V Collection のインストゥルメントをコントロールするため のプログラムモードです。
- DAW [p.45]:レコーディングソフトウェア (DAW) を KeyLab mk3 から直接操作できるプロ グラムモードです。

上記のリンクをクリックすると、それぞれのチャプターに移動できます。

プログラムボタンは、次のような操作を行う際のショートカットとしても使用できます。

- プログラムボタンを長押しすると、現在入っているプログラムモード (Arturia、DAW、また は User) がパッドに表示されます。グリーンで点灯しているパッドが、現在入っているプロ グラムモードです。
- プログラムボタンを長押しし、赤く点灯しているパッドをタップすると、別のプログラムに ジャンプします。

#### 2.9. MIDI チャンネル

マルチティンバーのインストゥルメントや複数のサウンドモジュール (ソフトでもハードでも)を使用する 場合、正しい MIDI チャンネルに設定することが必須です。

この操作は KeyLab mk3 の中で最も簡単なものの1つだろうと思います。MIDI Ch ボタンを押しながら、 キーボードの最低音から16個までのキーの1つを押すだけで MIDI チャンネルを変更できます。このとき、 選択した MIDI チャンネルがディスプレイに表示されます。チャンネル選択時に便利なように、16個のキ ーの上にチャンネルの番号がプリントされています。

♪ MIDI Ch ボタンを押すと、現在使用している MIDI チャンネルがディスプレイに表示されます。

KeyLab mk3 は、12個のベロシティ、プレッシャーセンス対応のデュアルファンクション・パフォーマン スパッドを装備しています。



デフォルトでは、パッドは MIDI ノートを送信し、ドラムサウンドや効果音などのトリガーとして便利で す。

パッド	MIDI ノート	デフォルト MIDI チャンネル
パッド1	G#1 / 44	10
パッド 2	A1/45	10
パッド 3	A#1/46	10
パッド 4	B1/47	10
パッド 5	E1/40	10
パッド 6	F1/41	10
パッド 7	F#1/42	10
パッド 8	G1 / 43	10
パッド 9	C1 / 36	10
パッド 10	C#1/37	10
パッド 11	D1/38	10
パッド 12	D#1/39	10

デフォルトでの12個のパッドから送信される MIDI ノートは、次の通りです:

**Bank+** ボタンを押すと、バンク B に移動します。デフォルトでは、バンク B の内容はバンク A と同様で、1オクターブ上の MIDI ノートを送信します。バンク C と D はそれぞれ1オクターブずつ上の MIDI ノートを送信します。**Bank+** と **Bank-** ボタンを同時に押すと、バンク A に戻ります。

各パッドは、任意の MIDI CC または MIDI ノートに設定できます。この設定は、User モード内のユーザー マップ、または MIDI Control Center アプリケーションを使用して行えます。

# 2.11. ホールド機能

ホールドは、キーボードで演奏した音を長く伸ばしたり (パッドでは使用できません)、演奏中のアルペジ オをキーボードから手を放してもそのまま継続させることができる機能で、サステインペダルとよく似た 機能です。



まず Hold ボタンを押し、それからキーボードでコードなどを押さえたり、レガート奏法のように音を重 ねます。次にキーボードから手を放すと、弾いた音が長く伸びます。

その状態で別のノートやコードを押さえます。するとそれまで長く伸びていた音やコードが鳴り止み、新 たに押さえたノートやコードの音が長く伸びます。

ホールド機能がオンの場合、Hold ボタンが点灯します。Hold ボタンをもう一度押すとホールド機能がオフになります。

アルペジエイターを使用している場合、キーボードでコードなどを押さえている間だけアルペジオ演奏が 繰り返し続きます。Hold ボタンを押してからキーボードでコードなどを押さえると、キーボードから手 を放してもアルペジオ演奏がそのまま続きます。Hold ボタンをもう一度押すとホールド機能がオフにな ります。

♪ ホールド機能の聴感上の効果は、選択している音色によって変わります。例えばマリンバなどのようにすぐに減 衰する音色の場合、ホールド機能による効果はあまり期待できません。最悪の場合、発音数を無駄に消費してしまう だけになってしまいます。

#### 2.11.1. パニックメッセージの送信

キーボードを弾きながら別のインストゥルメントに切り替えると、音が鳴り止まなくなってしまうことが あります。同様に、コントローラーの値が不要な値で動かなくなってしまうこともあります。このような 状況は、パニックメッセージやオールノートオフと呼ばれる、すべてのコントローラーをリセットし、す べての MIDI チャンネルに「ノートオフ」メッセージを送信することで簡単に解決できます。

KeyLab mk3 からパニックメッセージを送信するには、Stop ボタンを素早く3回押します。



KeyLab mk3 は、キーボードをワンフィンガーで弾くだけでコード演奏ができる、一歩進んだコードモードを内蔵しています。キーボードでの演奏に沿って、コードの音程が上下にトランスポーズします。



コードモードのオン/オフは、Chord ボタンを短く押して切り替えます。

# 2.12.1. プリセットコードの演奏

Chord ボタンを **長押し** すると、コードメニューに入ります。

PRESET		RECORD
min		
5th		
Maj		
min		
sus2		
sus4		
0 %	Off	No
STRUM	VOICING	SPREAD

ディスプレイ内の「Preset」に対応するコンテクストボタンを押すと、プリセットコードのリストが開き ます。リストの内容は次の通りです:

- Octave
- Fifth
- Major
- minor
- sus2
- sus4
- Maj7
- min7
- Maj9
- min9

- Maj11
- min11
- User

メインエンコーダーを回してキーボードで単音を弾くと、プリセットコードの音をチェックできます。

Back ボタンを押すと、コード選択画面から抜けます。コード選択画面で最後に選択したコード (のタイプ) が記憶され、Chord ボタンを押す (ボタンが点灯します) と、そのコードを使用します。

♪ メニューボタンのいずれか (どれでも構いません) を長押しするとプリセットコードの選択がリセットされ、デフ ォルトのコードに戻ります。ユーザーコードの場合は専用のリセットボタンがあります。

#### 2.12.2. コードモードの動作の仕組み

入力したコードの最低音がそのコードのルートノートだとみなされます。例えば、G2、C3、E3 の音を入 力するとCメジャーコードの第2転回形になります。しかしコードモードに入ってキーボードでC3の音を 弾くと、実際に聴こえるのはC3、F3、A3のコード、つまりFメジャーコードになります。これは、C3の 音を弾くことで KeyLab mk3 に元のコードから半音5個分上に(4度上に)トランスポーズするようにと指 示したためです。元のコードと同じ音で発音させるためには、G2を弾く必要があります。

例をもう1つご紹介しましょう。コードモードを使用してルート音とその5度上の音を演奏したいとしま す。その場合のお勧めの操作は次の通りです:

- Chord ボタンを押しながら……
- キーボードでCの音を弾き、その上のGの音を弾きます。
- Chord ボタンから手を放してコードレコードモードから抜けます。
- キーボードでCの音を弾きます。するとCとその上のGの音が鳴ります。
- キーボードでEの音を弾きます。するとEとその上のBの音が鳴ります。

コードを入力するときに、キーボードで音を指定する順番が重要です。上の例の場合、C の前に G を弾く と、G がそのコードのルートだとみなされます。そのため、コードの入力後に C の音を弾くと、C とその 下の F の音が鳴ります。

以上がコードを入力する際の注意ポイントです。1つのコードには最大16音までを使用できます。

📗 ♪ コードを入力するときは、ルートにしたい音を他の音よりも少し先に弾くと、思い通りのコードにできます。

Chord ボタンをもう一度押すとコードモードが解除されます。



## 2.12.3. Chord ボタンを使用してコードを作成する

Chord ボタンを長押しするとボタンが点滅し、キーボードで16音までのコードを入力します。このとき、 最初に弾いた音がルートになります。入力した音はディスプレイに表示されます。入力が終わりましたら Chord ボタンを放し、キーボードで1音弾くと入力したコードを発音します。キーボードで弾いた音程に 沿ってコードがトランスポーズします。

♪ コードのすべてのノートデータは、USBと MIDI 端子から送信されます。

上記の方法は、例えば最大16本の指を必要とするコードを入力したり、片手では届かないほど広いイン ターバルのコードを入力するときに便利です。Chord ボタンを押したまま、最大16音まで、コードのす べての構成音を入力するまで、それぞれの音を1つずつ弾いていくことで入力することができます。

#### 2.12.4. コードエディットモード

コードエディットモードに入るには、Chord ボタンを長押しします。



このページには、コードの設定や演奏法などのパラメーターが入っています。それぞれを見ていきましょう。

Preset:リストからコードのタイプや、この前のセクション(「Chord ボタンを使用してコードを作成する」)の手順で作成したコード(リスト内の「User」)を選択します。

PRESET			RECORD	
min				
5th				
Maj				
min				•
sus2				
sus4				
0 %		Off	No	
STRUM	VC	DICING	SPREAD	

• Record:コードの入力方法が少し異なります。ここでは、入力した音が表示され、ルート はブルーで表示されます。追加する音や削除したい音をキーボードで指定します。最初から やり直したいときは、Reset を使用します。OK を押すとコードのエディットが終了します。 Strum:ストラムは、ギターのコードストロークと似た奏法で、コードの構成音をすべて同時にではなく、1つずつズラして発音させることができます。このときのスピードも調整でき、アルペジエイターのスピード (BPM) または外部クロックに同期できます。

PRESET			RECORD		
Oct					
	15	%			
STRUM					
15 %	Up	Off			
STRUM	TYPE	VOICING	SPREAD		

 Type:ストラムがオン (設定値が1以上)の場合、このメニューが使用できます。ここでは、 コードの構成音を発音する順番を Up、Alt Up、Down、Alt Down、Random から選択でき ます。

PRESET			RECORD
Oct			
Up			
Alt Up			
Down			
Alt Down			
Random			
15 %	Alt Down	Bass -2	
STRUM	TYPE	VOICING	SPREAD

 Voicing:このモードでは、プリセットコード(ユーザーコードでは使用できません)を転回 させることができます。オンにすると、コードのルートを変えるときにより音楽的なコード ボイシングにします。例えば、プリセットコードでメジャーコードを選択し、C の音をキー ボードで弾くとCメジャーコードが鳴ります。次にFの音を弾けばFメジャーコードが鳴り ます。このとき、FメジャーコードはCメジャーコードを単純に4度上に平行移動するのでは なく、キーボードプレイヤーがライブで演奏しているかのようにFメジャーコードを転回さ せて発音します。また、Bass -1、Bass -2、Bass -3の各オプションは、1-3オクターブ低い ルート音を追加します。

PRESET			RECORD
Oct			
0//			
Off			
On			
Bass -1			
Bass -2			
Bass -3			
15 %	Up	Bass -2	
STRUM	TYPE	VOICING	SPREAD

 Spread:このモードは、選択したコードにオクターブ上のコードを追加します。Velocityを 選択した場合は、キーボードを弾いたベロシティに応じて追加するコードのオクターブが上 がり、Aftertouchを選択した場合は、アフタータッチの圧力に応じて追加するコードのオク ターブが上がります。1-16の数値は追加する音数で、数値が大きいほど数オクターブが重 なった重厚なサウンドに鳴ります。

PRESET			RECORD
Oct			
No.			
NO			
Velocity			_
Aftertouch			
1			
15 %	Alt Down	Bass -2	Aftertouch
STRUM	TYPE	VOICING	SPREAD

# 2.13. スケール

スケール機能は、キーボードでの演奏時に調性に合った正しいキーで演奏しやすくなる機能です。



スケール機能は、選択したスケールに含まれていない音を弾いたときに、スケールに合った音にリダイレ クトするというものです。その結果、どんな音を弾いてもスケールに沿った音で演奏することができま す。

Scale ボタンを押すとスケールモードがオンになります。このとき、前回選択したスケールのタイプとルートが適用されます。

♪ 選択したスケールは、KeyLab mk3 の電源を切って再び電源を入れても記憶されます。

Scale ボタンを押すと、スケールモードがオンになり、ディスプレイには Scale Mode On と表示され、Scale ボタンが点灯します。

C Major ROOT TYPE RECORD

Scale ボタンを 長押し すると、スケールエディットモードに入ります。

ディスプレイに **Root** と表示されているすぐ下のコンテクストボタンを押すと、スケールのキー (ルート 音) を選択できます。ルート音は Root の上にブルーで表示されます。

Type のコンテクストボタンを押すと以下のスケールタイプから選択できます:

- Major:メジャースケール
- Minor:ナチュラルマイナースケール
- Dorian:ドリアンモード
- Phrygian:フリジアンモード
- Lydian:リディアンモード
- Mixolydian: ミクソリディアンモード
- Locrian:ロクリアンモード
- Harmonic Minor: ハーモニックマイナースケール
- Blues:ブルーズスケール (6音)
- Pentatonic Major:ペンタトニックスケール (5音)
- Pentatonic Minor:ペンタトニックスケール (5音、ブルーズスケールの簡略版)
- Japanese:日本音階(ペンタトニック)
- **Gypsy**:ジプシースケールの1つ
- Arabic: アラビックスケール (ダブルハーモニックスケール)
- Freygish:フレイギッシュ(フリジアン・ドミナントスケール)
- User: ユーザー作成スケール (以下参照)

スケールモードがオフの場合、KeyLab mk3 のキーボードは通常の **クロマティック** スケールで動作しま す。 オリジナルスケールを作成するのは簡単です。スケールメニューに入り、Record ボタン (ディスプレイ右下の Record のすぐ下のコンテクストボタン) を押します。



初めてスケールモードを使用したときは、デフォルト状態のスケールが表示されます。そうでない場合 は、Reset ボタンを押してください。

オリジナルスケールを作成するには、Reset ボタンを押します。次にスケールに入れたい音をキーボード で指定します。例えば、ルート音にCを使用している場合は、すべての白鍵を弾けばCメジャースケール になります。

スケールに入れたい音を指定すると、その内容がディスプレイに表示されます。指定した音は白く表示されます。

】 ♪ メニューボタンのいずれか (どれでも構いません) を長押しするとデフォルト設定にリセットします。Record 画 面では専用の Reset ボタンがあります。

スケールの音指定が終わりましたら OK を押します。

Back ボタンを押すと、スケールメニューから抜けます。

# 2.14. アルペジエイター

KeyLab mk3 には、クラシックシンセに倣った楽しくてフレキシブルなアルペジエイターが搭載されており、コードからさまざまなパターンを作り出すことができます。



アルペジエイターは、キーボードで押さえたコードをアルペジオに変換する機能です。アルペジエイター には、スピードやオクターブレンジ、モード (アップやダウンなど) といったパラメーターのほか、キーボ ードから手を放してもアルペジオ演奏を続けるかどうかを設定するパラメーターがあります。また、アル ペジオ音の間隔をシャッフルビートのようにするスウィングや、アルペジオ音の音の長さを設定するゲ ートも調整できます。

アルペジエイターで生成した MIDI ノートデータは、USB-C ポートまたは5ピンの MIDI アウト、またはそ の両方から送信されます。

#### 2.14.1. アルペジエイターを使用する

アルペジエイターをスタートさせるには、Arp ボタンを押します。次にキーボードで単音やコードを押さ えます。押さえたコードの構成音が1つずつ順番に発音します。別のコードを押さえると、そのコードに 沿ったアルペジオを演奏します。

Arp ボタンをもう一度押すと、アルペジエイターがオフになります。

アルペジエイターは通常、キーボードで単音やコードを押さえている間だけ動作します。キーボードから 手を放してもアルペジオ演奏を続けさせたい場合は、**Hold** ボタンを押します。これにより、別のコード を押さえるか、Hold ボタンをもう一度押すまで、アルペジオ演奏が繰り返し続きます。

♪ アルペジエイターはキーボードでのみ動作し、パッドからは使用できません。アルペジエイターがオンのときでも、パッドから MIDI ノートを送信するなどの操作は可能です。

## 2.14.2. アルペジオのエディット

MODE	DIVISION	GATE	OCTAVE
Up	1/8	80 %	0
Up			
Down Inclusive Exclusive Random			
50 %	120	Internal	
SWING	BPM	SYNC	RANDOM

アルペジエイターのエディットモードに入るには、Arp ボタンを **長押し** します。

このページで、アルペジエイターの全機能をエディットできます。ディスプレイには全部で8つのパラメ ーターが表示されます。

】 エディット内容をリアルタイムで確認するには、ディスプレイに Arp ON と表示されたことを確認してください。 い。"Arp ON"が表示されない場合は、Arp ボタンを押してアルペジエイターをオンにしてください。

- Mode:アルペジエイターがコードの構成音を発音する順番を選択します。
- Division:アルペジオの各音のリズム (マスターテンポに対する音の長さ:音符の種類)を設定します。
- Gate: アルペジオの各音の長さを調整します。
- Octave:アルペジオが繰り返すごとにシフトするオクターブの幅を設定します。4オクター ブ上から1オクターブ下までの間で選択できます。
- Swing:アルペジオの各音のリズム上の間隔を調整し、シャッフルビートのような効果を作り出します。
- BPM:同期設定 (Sync) が内部クロック (Internal) の場合、アルペジオのスピードを BPM 単 位で設定します。
- Sync: クロックのソースを選択します。KeyLab mk3の内部クロック (Internal) または、接続したソフトウェアやハードウェアからのクロック信号 (Ext) のどちらかに選択します。
- Random:現在のアルペジオの設定をランダム化する7つのパラメーターがこのメニューに 入っています。

まず、アルペジエイターをオンにします。Arp ボタンを長押ししてアルペジエイターメニューに入り、画 面右下にある Random のすぐ下のコンテクストボタンを押します。するとランダムモードをコントロー ルする画面が開きます。



動作の仕組みは次の通りです。アルペジエイターがオンの場合、キーボードで単音やコードを押さえる と、アルペジエイターのエディットページの設定に従ってアルペジオ演奏をします。

ランダムモードのパラメーターは、エディットページの各種設定をより生成的かつランダム的に変化させ ます。そのため、キーボードを弾くたびにアルペジオ演奏が一定の割合でランダム化され、微妙に(設定 次第では大胆に)変化したアルペジオになります。

では、ランダムモードにある 確率 レベルの各種パラメーターを見ていきましょう:

- Trig:アルペジエイターのステップを発音する確率を設定します。50%で、発音する確率が 1/2になります。
- Skip:ステップをスキップする確率を設定します。スキップするとそのステップは無視され次のステップにすぐ進み、パターン全体をそのステップ分だけ前に詰めます。
- Division:ステップのタイムディビジョンが大きくなったり(設定値がプラスの場合)、小さくなったり(設定値がマイナスの場合)する確率を設定します。タイムディビジョンが小さくなった場合、そのステップの後に短いタイムディビジョンを挿入してギャップを埋め、ビートが崩れないようになります。タイムディビジョンが3連符の場合、3連符系のタイムディビジョンの範囲内で変化します。どちらの場合でもタイムディビジョンが変化しますので、パターン全体の拍数は変化します。

MODE	DIVISION	GATE	OCTAVE
Up	1/8	80 %	0
4/00			
1/8D			
1/4T			
1/8			
1/16D			
1/8T			
50 %	120	Internal	
SWING	BPM	SYNC	RANDOM

- Octave:ステップの音程が1オクターブ上がったり(設定値がプラスの場合)、下がったり(設 定値がマイナスの場合)する確率を設定します。
- Gate:ステップのゲートの長さが長くなったり(設定値がプラスの場合)、短くなったり(設定値がマイナスの場合)する確率を設定します。元のゲートの長さが80%以上で、このパラメーターの設定値をプラスに設定した場合、ゲートの長さは最長200%に制限されます。元のゲートの長さが20%以下の場合、ゲートの長さは最低値の1%に抑えられます。
- Ratchet:ステップを同じタイムディビジョンで連打する (スタッター効果のように素早く連 打する)確率を設定します。パターン全体の拍数は変化しません。



Velocity:ステップのベロシティ値が大きくなったり(設定値がプラスの場合)、小さくなったり(設定値がマイナスの場合)する確率を設定します。元のベロシティ値が極値(1や127)に近い場合の動作は、Gateでの動作と同様になります。

】 ♪ 元のベロシティ値が最大値の127に近かった場合、このパラメーターをプラスの設定値にしても、127を超えるこ とはありません。

Random (サイコロのアイコン):このページにある7つのパラメーターに微調整されたランダム値を適用し、各パラメーターを再調整することなく新しいランダムセットを作成します。

このページのパラメーターの設定値をリセットしたいときは、そのパラメーターのコンテクストボタンを 長押しします。サイコロのアイコンに対応するコンテクストボタンを長押しすると、すべてのランダム値 をリセットします。

Backボタンを押すと、ランダムページが閉じます。



# 2.15. DAW コントロール

KeyLab mk3 のメイン機能の1つが、DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション:レコーディング ソフト) のリモートコントロールです。リハーサルやレコーディング、音楽やオーディオの編集時に、 DAW の最も重要なコントロール要素が手の届くところにあれば、眼の前の作業に集中しやすくなりま す。

DAW コントロールには、12個のボタンが使用できます。下段の8個 (ループから TAP まで) は、DAW コン トロール専用ボタンで、Arturia プログラムや User プログラムを使用しているときでも DAW をコントロ ールします。つまり、Multi プリセットを作成しているときや、その他の作業をしているときでも、再生 ボタンは常に DAW の再生ボタンとして機能します。

お使いの DAW が 対応 DAW の場合、KeyLab mk3 と DAW が正しく設定されていれば、DAW が自動的に 認識されます。また、KeyLab mk3 は MCU、HUI プロトコルを使用してほぼすべての DAW をコントロー ルできます。

DAW モードに入るには、**Prog** ボタンを押し、次に **DAW** のコンテクストボタンを押します。このモード は、対応 DAW 用に作成されたスクリプトを使用して DAW をディープにコントロールしたいときに使用し ます。DAW コントロールは、MCU/HUI プロトコルにより、どのプログラムモードでも動作します。



ディスプレイの左側にある12個のボタン (上段に4個、下段に8個) はすべて DAW コントロールで使用する ものです。このうち、Save、Undo、Redo は Arturia ソフトウェアでも使用します。この12個のボタンか らはコントロールメッセージがソフトウェアに送信され、ほとんどの DAW で便利に動作するように設計 されています。

# 2.15.1. DAW ユーティリティ・コントロール

業界標準の Mackie HUI データ言語の採用により、レコーディングソフトでよく使われるコマンドのほと んどを KeyLab mk3 から直接使用できます。



- Save: DAW のプロジェクトを保存します。
- Quantize:選択した MIDI クリップ/パートをクォンタイズします。
- Undo:トラックの削除や MIDI レコーディングなど、直前に行った操作を取り消します。
- Redo: Undo で取り消した操作を再実行します。

#### 2.15.2. DAW トランスポート・コントロール

下段の8つの DAW ボタンはトランスポートコントロールとして機能します:



- Loop:DAW のループ機能のオン/オフを切り替えます。ループ区間の設定は DAW 側で行っ てください。
- Rewind/Fast-forward:DAW の再生カーソルを前後に素早く移動します。編集時に特定の ポイントへ頭出ししたいときなどに便利です。
- Metronome: DAW のメトロノームのオン/オフを切り替えます。
- **Stop**:再生を停止します。レコーディングソフトによっては、再生カーソルをトラックの先 頭や前回再生した位置に戻すものもあります。
- Play/Pause: DAW の再生と一時停止、再生カーソルの位置からの再生をします。
- Record:DAW を録音を開始します。トラックが停止しているときに Record ボタンを押す と、録音中の再生が始まります。トラックがすでに再生している場合に Record ボタンを押 すと、現在の再生カーソル位置から録音を開始します。
- Tap:このボタンをタップしてテンポを入力することができます。

DAW セクションのボタンから送信されるメッセージは、MIDI Control Center で MCU または HUI プロト コルに切り替えることができます。

▶ KeyLab mk3 とお使いの DAW との互換性は、その DAW の MCU/HUI プロトコルの取り扱いによって変わり ます。詳しくは、Arturia ウェブサイトの KeyLab mk3 製品ページ、またはお使いの DAW の取扱説明書をご覧くださ い。

# 2.15.3. DAW の互換性

KeyLab mk3 は DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) のコントロールが可能です。



KeyLab mk3 は、以下の DAW に対応しています:

- Ableton Live
- Apple Logic Pro
- Bitwig Studio
- Image-Line FL Studio
- Steinberg Cubase

上記のリスト以外の DAW をお使いの場合は、以下の汎用プロトコルが使用できる可能性があります:

- Standard MCU
- Standard HUI

DAW モードの詳細につきましては、DAW チャプター [p.45]をご覧ください。

# 2.16. ディスプレイとそのコントロール

KeyLab mk3 を使用しているときの各種情報の主なソースは、大型ディスプレイに表示されます。設定内 容を詳細にチェックしたり、設定を変更するときは、8個のコンテクストボタンやメインエンコーダー、 Back ボタンを使用します。



## 2.16.1. コンテクストボタンの動作

ディスプレイの上下にある8個のボタンは、*コンテンツ連動型、*つまりディスプレイの表示内容によって 具体的な機能が変化します。



上図の例では、左上のボタンはスプリットポイントの設定に使用し、その右のボタンはパート1の選択、 その右のボタンはパート2の選択に使用します。
# 2.16.2. メインエンコーダー

メインエンコーダーには、さまざまな役割があります。



- 回す:左右に回してディスプレイに表示されるさまざまなパラメーターを選択します。
- クリックする:メインエンコーダーを押して、エディットしたいパラメーターを選択したり、設定のオン/オフを切り替えたりします。
- **回す**:ディスプレイ内であるアイテムを選択している状態でメインエンコーダーを回すと、 その設定値が変わります。
- **クリックする**:パラメーターの設定値を変更したときに、メインエンコーダーを押すとその 変更が確定します。

♪ DAW モードに入っている場合、一部の DAW ではメインエンコーダーを回すと「ジョグホイール」として機能します。つまり、DAW の再生カーソルを前後に移動させることができ、作業効率を高めることができます。

### 2.16.3. Back ボタン

KeyLab mk3 の操作では、Back ボタンは欠かせない存在です。

機能やエディットしたいパラメーターの選択後、Back ボタンを押すたびに1つ前のステップに戻ります。 Back ボタンは、エディットしているパラメーターの選択解除にも使用します。

# 2.17. エンコーダーとフェーダー

フロントパネルの右側にあるエンコーダーとフェーダーは、さまざまな用途に使用できます。



- Analog Lab や V Collection などの Arturia インストゥルメントで作業をする場合、インストゥルメントのパラメーターを KeyLab mk3 からダイレクトに操作することで、より表現力豊かな演奏をすることができます。
- DAW を使用している場合、KeyLab mk3 からリモートコントロールが行えます。DAW のトランスポート等の操作だけでなく、ミキサーのボリュームやパンニングも操作できます。
- KeyLab mk3 の Settings (設定) メニューや MIDI Control Center を使用すれば、エンコーダ ーとフェーダーの機能を設定して、あらゆる MIDI メッセージ を使用してほぼすべてのパラ メーターをコントロールできます。

エンコーダーとフェーダーは、Arturia インストゥルメントの マクロ にアサインされます。マクロには複 数のパラメーターをアサインできますので、KeyLab mk3 のエンコーダーを1つ回すだけで、さまざまな 効果を作り出すことができます。このことは、フルバージョンの V Collection インストゥルメントを使用 するときも同様で、Analog Lab V の設定を開いて V Collection インストゥルメントのパラメーターをマク ロにアサインすることができます。

♪ Analog Lab をスタンドアローンのインストゥルメントとして使用する場合は、Analog Lab の画面右上にあるギ アのアイコンをクリックして設定画面に入り、KeyLab mk3 を MIDI コントローラーに設定してください。

# 2.18. キーボード

KeyLab mk3 には49鍵モデルと61鍵モデルの2タイプがあります。どちらのタイプも、ベロシティ、リリ ースベロシティ、プレッシャーセンス (チャンネルアフタータッチ) に対応したセミウェイテッド鍵盤を採 用しています。



### 2.18.1. キーボードのフィールを変更する

私たちはみんなそれぞれ違います。キーボードを弾くタッチが強いプレイヤーもいれば、ソフトなタッチ が好みのプレイヤーもいます。アフタータッチについても同様です。幸いなことに、KeyLab mk3 ではキ ーボードのタッチカーブなどを演奏スタイルや好みに合わせて設定することができます。

# 2.19. リアパネルの接続端子

KeyLab mk3 のリアパネルには、さまざまな接続端子があります。

ux In E	Expression	Sustain	MIDI In	MIDI Out	12V <del></del> 1.0A ⇔ <del>.©</del> -�	USB C
•	0	$\bigcirc$			•	

- ・ Sustain/Aux In:この端子には、一般的なサステインペダルやオン/オフタイプのペダルを 接続できます。サステインペダルを踏んでいないのに音が長く伸びてしまうなど、予想と逆 の動作になってしまう場合は、Settings ボタンを押して設定メニューに入って修正すること ができます。Pedal Calibration を選択し、次に Sustain (または Aux) Pedal Calibrationを 選択します。これらのパラメーターは、Settings → Global、または Prog → User (長押し) → Settings → Pedals にあります。ペダルを 踏んでいない 状態にし、メインエンコーダーを押 します。次に、ペダルを 踏んだ状態にし、メインエンコーダーを押します。
- Expression:この端子には、一般的なエクスプレッションペダルを接続できます。予想と 逆の動作をしてしまう場合は、Settings ボタンを押して設定メニューに入って修正すること ができます。Pedal Calibration を選択し、次に Expression Pedal Calibration を選択しま す。ペダルの かかと側を下げ切った 状態にし、メインエンコーダーを押します。次にペダ ルの つま先側を完全に踏み込んだ状態にし、メインエンコーダーを押します。

上記の3つの接続端子の詳細につきましては、User モード [p.48]と MIDI Control Center [p.70] セクション をご覧ください。

- MIDI In: 外部機器からの MIDI メッセージを受信するときは、この端子に MIDI ケーブルを接続します。また、この端子は、DAW の MIDI-USB コンパーターとしても機能します。
- MIDI Out: KeyLab mk3 から外部機器へ MIDI メッセージを送信するときに、この端子に MIDI ケーブルを接続します。KeyLab mk3 にパワーサプライ (別売)を接続することで、コン ピュータと接続せずに MIDI メッセージの送受信をすることができます。
- **電源コネクター**: KeyLab mk3 をコンピュータと接続せずに使用するときは、パワーサプラ イ (別売: DC12V、1.0A) をこの端子に接続します。
- USB-C: DAW を併用する場合、この USB-C ポートからコンピュータに接続します。このポートにコンピュータから電源が供給され、MIDI メッセージとコントロール情報も送受信します。

# **3. ARTURIA PROGRAM**

KeyLab mk3 は、さまざまな音楽環境で活躍するように設計され、Analog Lab や V Collection などのコ ントローラーとして最適です。音色選択から音色の深いコントロールに至るまで、KeyLab mk3 と Arturia インストゥルメントで強力なコンビネーションを構築できます。

】 ♪ このチャプターでは、KeyLab mk3 の機能を中心にご紹介し、便宜上、Analog Lab についてもご説明します。 Analog Lab に関する詳細につきましては、Analog Lab のマニュアルをご覧ください。

# 3.1. Analog Lab との接続

Analog Lab と V Collection インストゥルメントは、スタンドアローンモード (アプリケーションとして) または DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) のプラグインとして使用できます。

KeyLab mk3 と Analog Lab とのディープな統合をお楽しみいただく前に、以下の必要な条件を満たす必要があります:

- Analog Lab をダウンロードし、インストールし、アクティベーションをする必要がります。
- KeyLab mk3 とお使いのコンピュータを USB-C ポート経由で接続します。
- Analog Lab アプリケーションを開きます。
- KeyLab mk3 の Prog ボタンを押し、Arturia プログラムモードを選択します。
- キーボードで単音を弾きます。Analog Lab が反応しない場合は、Analog Lab のプリファレンス (設定メニュー)を開き、MIDI Device で KeyLab mk3 が選択されているかどうかを確認してください (下図参照)。

× Audio MIDI Settings					
Audio Settings Adjust the audio settings to your setup.		III MIDI Settings Select the MIDI ports to use your controllers.			
Audio Driver	◆ CoreAudio	MIDI ports	USB MIDI-enhet		
Audio Device	♦ MiniFuse 4		<ul> <li>KeyLab 49 mk3 MIDI</li> <li>KeyLab 49 mk3 DAW</li> </ul>		
Output channels	Main Output Left + Right Aux Output Left + Right LOOPBACK Left + Right	Tempo	120.0 BPM - +		
Input channels	MIC/LINE/INST 1 MIC/LINE/INST 2 LINE 3				
Buffer size	128 samples (2.9 ms)				
Sample rate	<b>≑</b> 44100 Hz				
Test Audio 🔌	Play		ок		

上述の図のように設定することにより、Analog Lab を開けば必ず KeyLab mk3 でコントロールできるようになります。ただし、KeyLab mk3 で Analog Lab を初めて使用するときは、MIDI コントローラーの設定で KeyLab mk3 を選択する必要があります。

MIDI コントローラーの設定に入るには、Analog Lab の画面右下にある **ギアのアイコン** をクリックし、 MIDI タブをクリックして、"KeyLab mk3"を選択します。これにより、KeyLab mk3 用のマッピング設定 がロードされます。

ŝ				
	<b>\$</b> Settings	) MIDI	⊖ © Macros	Tutorials
	MIDI CONTR MIDI Contr Fader Mod	eol oller e	KeyLa	b mk3 ∨ Scale ∨

KeyLab mk3 のコントロールが Analog Lab のどのパラメーターにマッピングされているかを確認するに は、Analog Lab の画面右下にある **Control** ボタンをクリックします。



すると、上図のような画面表示になります。ぜひお試しください!

▲ KeyLab mk3 が DAW モードに入っているときは、DAW で選択しているトラックが Analog Lab を使用している 場合、Arturia モードに切り替えることでこのチャプターに記載されている内容のすべてを操作できます。KeyLab mk3 のトランスポートボタンは、DAW モード時と同様に DAW を操作できます。ただし、Arturia モードではメインエンコ ーダーを操作しても DAW のトラックを切り替えることはできません。トラックを切り替えたい場合は、DAW モードに 切り替える必要がります。

】 ♪ DAW モードに入っている場合、**メインエンコーダー** を押すと Arturia プログラムモードに切り替わります。 DAW モードに戻るときは、**Back** ボタンを押します。 上述のような設定をすべて済ませた後、最初に KeyLab mk3 のディスプレイに表示されるものは、 Analog Lab のプリセット名とその画像でしょう。このとき、同じプリセットが Analog Lab の画面にも表 示されています。



キーボードを弾けば、選択したプリセットの音が鳴ります。

Analog Lab の別のプリセットを選択するには、メインエンコーダーを回して使用したいプリセットを探し、メインエンコーダーを押すとそのプリセットがロードされます。

プリセットがフォーカスされているものの、まだロードしていない状態の場合、プリセット名が白字で表 示されます。



プリセットが選択されると、プリセット名が青字で表示されます。



別の方法として、2つのコンテクストボタン (上向きと下向きの矢印ボタン)を押して1つ先、または1つ前 のプリセットに移動できます。この方法の場合、ボタンを押すとすぐに新しいプリセットがロードされ、 メインエンコーダーでの操作のようにエンコーダーを押すことで選択を確認する段階が省略されます。

♪ Analog Lab の画面からプリセットを選択すると、同じプリセットが KeyLab mk3 のディスプレイにも表示され ます。このように、Analog Lab と KeyLab mk3 は常に「同期した」状態になります。

# 3.2. シングルとマルチプリセット

Analog Lab には2タイプのプリセットがあります。1つはシングル、もう1つはマルチです。シングルはイ ンストゥルメントを1つのみ使用し、マルチは2つ使用するプリセットです。



上図の例では、プリセットに2つのパートがあります。シングルプリセットをマルチプリセットにするの はいつでもできますし、その逆も可能です。また、必要に応じて、マルチプリセットの片方のインストゥ ルメントを別のものに入れ替えることもできます。

## 3.2.1. プリセットをフィルタリングする

Arturia プログラムモードを選択すると、ディスプレイ付近のセンターセクションとディスプレイ内のフィルターボタンが連動し、プリセットを効率的に選択することができます。

例えば、アコースティックピアノやリード、シーケンスというように、音楽制作の過程で欲しい音色のタ イプが決まっているときがあります。そのような場合には、**虫眼鏡** アイコンのコンテクストボタンを押す と、プリセットのフィルターページが開きます。

			LIKED
	ТҮІ	PES	
Lead			
Pad			
Piano			
Electric Pia	ano		<
Organ			
Strings			
Brass & Wir	nds		
TYPES	INSTRU	GENRES	BANKS

プリセットは、次の5つのカテゴリーでフィルタリングされます:

- Type: Bass、Piano、Strings などがあります。タイプを選択すると、そのタイプのサブタ イプに移動できます。
- Instruments: KORG MS-20、Piano、Vocoder など、Arturia の膨大なインストゥルメントのコレクションから選択できます。
- Genres: House、Latin、Syntwave などの音楽ジャンルで絞り込むことができます。

			LIKED
	GEN	RES	
Synthwave			
Techno			
Trance			
Trip Hop			
Tropical Ho	use		
UK Garage			
World			
TYPES	INSTRU	GENRES	BANKS

- Banks:ファクトリーバンクのほか、Arturia サウンドストアから購入したバンクなどがこ こにリスト表示されます。
- Liked:「使える」と思われたプリセットには、ハートアイコンでマーキングすることができます。ハートマークをつけたプリセットだけに絞り込むこともできますし、他のフィルタリング要素を組み合わせてさらに絞り込むこともできます。

この画面の機能はシンプルです。上記の5つのカテゴリーのいずれかを選択すると、プリセット選択ページに戻ります。次にメインエンコーダーを回すか、上下の矢印ボタン (のコンテクストボタン)を押すと、 選択したカテゴリーのプリセットだけでは表示されます。

♪ マルチプリセットも同様に、パート1とパート2で別々にプリセットをフィルタリングできます。

# 3.2.2. プリセットエディットページ

このページに入るには、**Prog** ボタンを押し、**Arturia** プログラムモードを選択し、エディットしたいプ リセットを選択します。



画面右上にある、ドットが横に3つ並んだアイコン (•••) のコンテクストボタンを押します。マルチプリセットの場合は、ここでパート1かパート2を選択できます。

エディットプリセット (•••) のコンテクストボタンを押します。最初に開いたページでは、そのプリセットの EQ とボリュームを設定できます。



このページでの操作も通常通り、画面に表示されたパラメーターの近くにあるコンテクストボタンを押 し、メインエンコーダーを回して設定値を変更します。このとき、メインエンコーダーを押して変更を確 定させる必要はありません。

		ADD PART 2	KEYBOARD			
	3.15	5 dB				
	IRE	BLE				
	0.00.15		0.00.15			
0.00 dB	0.00 dB	3.15 dB	0.00 dB			
BASS	MID	TREBLE	VOLUME			

♪ パラメーターに対応するコンテクストボタンを長押しすると、そのパラメーターのデフォルト設定値にリセット します。これが、デフォルト設定値に戻す最も簡単な方法です。 マルチプリセットで **パート1** または **パート2** を選択すると、エディット可能なパラメーターがさらに追加 されます。



- Replace:現在使用しているインストゥルメントを別のものに入れ替えます。
- Active:選択しているパートのミュートのオン/オフを切り替えます。
- Pan:選択しているパートの左右間のパンニングを設定できる、非常に便利なパラメーターです。値が 0.500 でセンターに、0.000 で左端に、1.000 で右端に定位します。
- Volume:全体的な音量を調整し、他のプリセットとの音量バランスを設定できます。

♪ このページはマルチプリセットですので、パート1とパート2で別々のエディットページがあります。

# 3.2.5. キーボード設定のエディット

キーボード設定をエディットするには、エディットしたいプリセットを選択し、••• アイコンのコンテク ストボタンを押し、**Keyboard Settings** を選択します。



- Low Key:発音する音域の最低音を設定します。参考までに、最も低いCは、C-2です。
- High Key:発音する音域の最高音を設定します。参考までに、最も高い音はG8です。
- Transpose: 選択したパートを半音単位でトランスポーズします。
- Octave:選択したパートのオクターブを上下にシフトします。

他のページと同様、パラメーターの設定値をデフォルト値に戻すには、そのパラメーターのコンテクスト ボタンを長押しします。

♪ MIDI ノートナンバーは、多少恣意的なところがあります。その一例がトランスポーズです。**Oct**+ を1回押すと、 キーボードの最低音は C1 のままですが、使用しているサウンドモジュールの C2 の音が発音します。

### 3.2.6. マルチプリセットについて

KeyLab mk3 を Analog Lab と使用すると、プリセットのいくつかがマルチ、つまり2つの音色で構成され たものがあることに気づくかと思います。

SPLIT	PART 1	PART 2	•••
∆ III Ta <mark>uuuuuu</mark>			
	Split Bas Plucke	ss Piano	
Q	$\heartsuit$	^	$\sim$

マルチプリセットはさまざまな使い方ができます。レイヤーする場合、2つの似たような音色(2つのパッドや2つのオルガンなど)や相互補完的な音色(ピアノとエレピなど)をキーボードの全域で重ねて演奏し、左右にパンニングを振って広がりのあるサウンドにすることができます。スプリットには、ベースとブラス音色がキーボード上に音域を分けて配置されているプリセットなどがあります。

## 3.2.7. マルチプリセットを作成する

まず、マルチの片方のパートにしたいシングルプリセット (インストゥルメントを1つだけ使用したプリ セット)を選択します。

♪ マルチプリセット作成の出発点として、マルチにしたい音色のシングルプリセットを選択するには、それなりの 理由があります。それは、マルチにした後でも使えるエフェクトやマクロがすでに設定されている方です (エフェクト やマクロを最初から作り直す手間が省けます)。 次に、••• のコンテクストボタンを押し、Add Part 2 のコンテクストボタンを押します。この操作で2つ目 のパートを追加でき、この時点でシングルプリセットが マルチプリセット になります。このとき、パー ト1と同じインストゥルメントを使用したパート2が表示されます。



♪ 以下のエディット操作はすべてどちらのパートも同じですので、ここから先の記載内容はすべてどちらのパートにも適用できます。

Part 1 (または2) のコンテクストボタンを押します。メインエンコーダーを回して、選択したパートで使用するインストゥルメントを選択できます。メインエンコーダーを押すと選択が確定します。このとき、上と下の矢印のコンテクストボタンを押してインストゥルメントを1つずつ切り替えて試すこともできます。フィルタリング(検索条件)を使用すると必要なインストゥルメントをすぐに見つけることもあります。

気に入ったインストゥルメントの組み合わせができましたら、**Done**のコンテクストボタンを押します。 この操作で **Split** や Layer ボタンのある前のページに戻ります。



♪ マルチプリセットのエディット時は、画面のテキスト、コンテクストボタン、Transpose と Octave ボタンはエ ディット中のパートによって表示色が変わります (パート1はオレンジ、パート2はグリーン)。 新しく作成したマルチは、2つの音色が重なったレイヤー音色です。キーボード上を2つの領域に分割して2つの音色を使い分けることができるスプリット音色にしたいときは、次のセクションをご覧ください。

### 3.2.7.1. レイヤーのマルチをスプリットに

レイヤーのマルチを選択し、画面左上にある Split のコンテクストボタンを長押しすると、スプリットの マルチプリセットに変更できます。

SPLIT	PART 1	PART 2	KEYBOARD
		•	
	001	AVL	
C-2	G2	0	1
LOW KEY	HIGH KEY	TRANSP	OCTAVE

このマルチでは、パート1の音域は G2 までで、1オクターブ高く発 音します

画面下部には4つのパラメーターが表示され、現在エディット中のパートの発音域、トランスポーズ、オ クターブシフトを設定できます。

♪ スプリットのマルチをレイヤーに変更する場合も上記と同様の手順で行えます。

#### 3.2.7.2. スプリットポイントの簡単な設定方法

スプリットポイントを最も簡単に設定する方法は、どちらかの Part のコンテクストボタンを押しなが ら、スプリットポイントにしたい位置をキーボードで指定するという方法です。

## 3.2.7.3. スプリットのクリエイティブな機能

KeyLab mk3 では、スプリットの構成方法を工夫することでクリエイティブな発想が可能に鳴ります。2 つのパートは、1つのスプリットポイントを共有するとは限らず、どのパートにも独自の発音域を設定す ることができます。

- **例1**:ベースとピアノ音色のマルチで、ベースの音域を C3 までとし、ピアノはキーボードの 全域で発音させることができます。
- **例2**:オルガンとリードのマルチで、キーボードの全域でオルガンを発音させ、リードはキ ーボードの高音域3オクターブの範囲でのみ発音させるように設定できます。
- **例3**:エレピ音色をキーボードの全域で発音させ、ベルの音色を G#5 でのみ発音させること ができます。

## 3.2.7.4. マルチプリセットのエディット

マルチプリセットを選択し、••• のコンテクストボタンを押すと、エディットプリセットページに入りま す。



Split:このコンテクストボタンを長押ししてキーボードで1音押すと、その位置がスプリットポイントになります。

Part 1/Part 2: Part 1 と Part 2 のページ構成は同一です。このページでパートを入れ替える Replace や、ミュートのオン/オフを切り替える Active、パートの定位を設定する Pan、音量を設定する Volume を使用できます。パートのインストゥルメントを変更することもできます。パート1またはパート2を選択してメインエンコーダーを押すだけです。

♪ 入れ替えたいインストゥルメントを探すときは、上下の矢印のコンテクストボタンは 使用しないで ください。 上下の矢印を使用すると、その時点で別のプリセットがロードされてしまい、ここでの目的には適していない結果を 招いてしまう可能性があります。ここでは、メインエンコーダーを回して入れ替えたいインストゥルメントを探し、希 望のインストゥルメントが見つかりましたらメインエンコーダーを押して選択を確定するという手順をお勧めします。

Keyboard:それぞれのパートの発音域やトランスポーズ、オクターブシフトを設定できます。

# 4. DAW PROGRAM

KeyLab mk3 の大きな強みは、DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) のコントロール機能で す。まずは、DAW プログラムに入ります。

KeyLab mk3 の電源を入れると、3つのオプションが提示されます。その1つが DAW プログラムです。メ インエンコーダーを回して DAW を選び、メインエンコーダーを押すと DAW プログラムに入ります。

WELCOME, WHAT DO YOU WANT TO DO ?					
A					
ARTURIA	DAW				
Control your Digital Audio Workstation					
SHOW THIS SCREEN AT LAUNCH   💽					

すでに KeyLab mk3 で何らかの作業をしていた場合は、フロントパネル左側にある Prog ボタンを押し、 DAW (画面に表示されます) のコンテクストボタンを押すと DAW プログラムに入ります。

# 4.1. DAW プログラムの概要

KeyLab mk3 が DAW モードに入ると、3つのモード (Arturia、DAW、User) が共存し、自由に切り替える ことができます。ただし、モードを切り替えると使用できなくなる DAW モードの機能もあります。例え ば、メインエンコーダーでトラックを選択することができなくなります。メインエンコーダーは、 Arturia モードと User モードでは他のことの操作に使用するためです。



しかし、Arturia モードで使用しない DAW 用のコントロールは、DAW モードでの機能を引き続き使用で きます。例えば、DAW コマンドボタンは、選択した DAW プリセットのトラック機能とグローバル機能を 引き続き使用できます。

User モードに切り替えると、DAW コマンドボタンは選択したユーザープリセットで割り当てられている 機能に使用します。これらは、**MIDI Control Center** でボタンをどのように設定したかによって、DAW コ マンドとして引き続き使用できたり、別の MIDI メッセージに割り当てられたりしています。



# 4.2. DAW プリセットの選択

DAW モードに入っていない場合は、Prog ボタンを押します。DAW モードボタンを **長押し** すると、DAW モードの設定画面に入ります。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS		
	SETT	INGS			
		rogram			
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS		

次に、Global のコンテクストボタンを押し、お使いの DAW 名が表示されているパラメーターまでスクロールします。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS			
	GLOBAL SETTINGS					
MIDI THRU						
PADS SENS	PADS SENSITIVITY					
AFTERTOU	CH SENS.		HIGH			
DAW PROT	DAW PROTOCOL					
DISPLAY BR	RIGHTNESS		100			
SLEEP MODE			5 min.			
WELCOME PAGE						
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS			

メインエンコーダーを押すと、その DAW プロトコルが選択されます。これで、KeyLab mk3 の機能がお 使いの DAW の最も重要な機能に合わせて再設定されます。

# 4.2.1. 対応 DAW のリスト

KeyLab mk3 には、以下の DAW に対応したプリセットを内蔵しています:

- Ableton Live
- Apple Logic Pro
- Bitwig Studio
- Image-Line FL Studio
- Steinberg Cubase

お使いの DAW が上記のリストにない場合は、次の2つのプロトコルを使用できます:

- Standard MCU
- Standard HUI

### 4.2.2. DAW 側の準備

各 DAW に特化した統合ガイドをご用意いたしました。Arturia ウェブサイトの Downloads and Manuals ページからダウンロードできます。また、KeyLab mk3 製品ページのリソースページからもダウンロード できます。

KeyLab mk3 を最大限に活用するために、ぜひチェックしてみてください。

# 5.1. コンセプト

User モードは、各種コントロールの機能を用途に合わせて自在に設定できるモードです。KeyLab mk3 のほとんどの機能を User プログラムで設定することができます。

User モードでは、レコーディングやライブ、リハーサルや教育、実験など、さまざまな用途に適した User プログラムを作成できます。

# 5.2. User プログラムの選択

Prog ボタンを押して User モードに入ります。

Arturia	DAW	User 1	
	Ľ	)	
	$\sim$	5	
	•		
	Use	er 1	
	LONG PRES	SS TO EDIT	
			Add New

このページの表示は、User プログラムの作成数によって上図と完全に同一になるとは限りません。

User プログラムは、次の3つの方法で選択できます。

- コンテクストボタンを押します。
- User プログラムに対応するパッドを押します。
- 他のモードに入っている場合、Progボタンを押しながらパッド 3-8 (作成した User プログラムの数によって実際に押すパッドの番号は変わります)を押します。

# 5.3. User プログラムの管理

デフォルトの User 画面は次の通りです。



ここからマルチセットアップを作成し、2つのサウンドモジュールをスプリットまたはレイヤーにして演奏することができます。また、作成した User プログラムに名前をつけ、ディスプレイの下の4つのボタンに好きな機能を割り当てることもできます。その他にもさまざまな機能があります!

# 5.4. User プログラムのエディット

Split のコンテクストボタンを押すと MIDI パートが2つ作成されます。このモードでは、フロントパネル 右側のエンコーダーとフェーダーは、マルチのパート1またはパート2をコントロールします。

ここでは色分けが大きなヘルプとなります。Analog Lab の Explore や Edit モードでは、パート1はオレン ジ、パート2はグリーンで表示されます。

SPLIT	PART 1	PART 2	•••
	6	2	
	Ľ	ノ	
	Use	er 1	
	- 00	51-1-	
BUTTON 1	BUTTON 2	BUTTON 3	BUTTON 4

ドットが横に3つに並んだアイコン (•••) のコンテクストボタンを押すと、パート1 (オレンジ) とパート2 (グリーン) の設定を変更できるページに入ります。

# 5.4.1. User グローバル設定

KeyLab mk3 のグローバル設定とは……グローバルな設定です! ここで設定した内容は、Arturia、 DAW、User のどのプログラムでも同一です。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS				
	GLOBAL SETTINGS						
GLOBAL C	URVES		<b>&gt;</b>				
PEDAL CAL	IBRATION						
MIDI THRU							
PADS SENSITIVITY			MEDIUM				
AFTERTOL	AFTERTOUCH SENS.						
DAW PROTOCOL			Cubase				
DISPLAY BI	RIGHTNESS		100				
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS				

Settings ボタンを押し、Global を選択するとこのページに入ります。

### 5.4.1.1. Global Curves - グローバルカーブ

グローバルカーブでは、キーボードとパッドのベロシティとアフタータッチのタッチカーブを設定しま す。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS	
	GLOBAL CUR	/E SETTINGS		
KEY VELO	CITY		Linear	
FIX VALUE			100	
KEY AFTER	RTOUCH		Linear	
PAD VELO	CITY		Linear	
FIX VALUE			100	
PAD AFTERTOUCH			Linear	
CUSTOM CURVE				
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS	

メインエンコーダーを回して Key Velocity を選択すると、次の5種類のカーブから選択できます:

- Linear:キーボードを弱く弾くと低いベロシティ値に、強く弾くと高いベロシティ値を出力 します。いわば、タッチに応じて最も素直に反応するカーブです。
- Logarithmic:弱めのタッチでも高いベロシティ値を比較的容易に出力します。弱いタッチの段階でベロシティ値が急激に高くなり、強いタッチになるほどベロシティの変化が鈍くなるカーブです(ログカーブ)。
- Exponential:上記のログカーブとは対照的なエクスポネンシャルのカーブです。弱いタッ チの段階ではベロシティ値の上昇は緩慢で、ある地点からベロシティ値が急激に高くなるカ ーブです。
- Fixed:タッチの強弱に関係なく、一定のベロシティ値を出力します。
- Custom:このページの最下部にある Custom Curve でベロシティカーブを自在に作成できます。タッチの強さに応じてベロシティが低くなるといったカーブも作成できます。

- Key Aftertouch、Pad Velocity、Pad Aftertouch も上記と同様にエディットできますが、 アフタータッチには Fixed はありません。
- Custom Curve:ベロシティカーブを自在に作成できるエディターです。ここには、キーボ ードやパッドのベロシティやアフタータッチのカーブを Custom に設定したときにのみアク セスできます。画面の左右の矢印ボタン (のコンテクストボタン) でバンドを選択し、メイン エンコーダーでレベルを設定します。設定した内容を破棄したいときは Reset のコンテクス トボタンを、設定した内容を採用する場合は、OKのコンテクストボタンを押します。



カスタムカーブエディターでクリエイティブなカーブを作成できま す

Back ボタンを押すとグローバル設定ページに戻ります。

## 5.4.1.2. Pedal Calibration - ペダルキャリブレーション

サステインペダルなどの フットスイッチ と、エクスプレッションペダルなどの コンティニュアスペダル の動作には、統一された規格がないのが現状ですが、幸いなことに KeyLab mk3 では動作の不一致を解 消することができます。

このページへは Pedals のコンテクストボタンを押して入ることもできます。

まず、お使いのペダルを接続します。次に Pedal Calibration までスクロールし、表示される指示に従い ます。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS
PE	DAL CALIBRA	TION SETTIN	GS
SUSTAIN P	EDAL CALIBR	ATION	>
EXPRESSIO	N PEDAL CALI	BRATION	
AUX PEDAL	CALIBRATION	1	
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS

Sustain Pedal Calibration:お使いのサステインペダルやフットスイッチの動作が逆になってしまう場合は、ここで修正できます。ペダルを 踏んでいない 状態にし、メインエンコーダーを押します。次に、ペダルを 踏んだ状態にして、メインエンコーダーを押します。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	5 PEDALS	s			
	BEDAL CALIBRATION SETTINGS SUSTAIN PEDAL CALIBRATION						
SUS1 EXPR	RELEAS	E PEDAL	>				
AUX	<u>+</u>						
PR	ESS MAIN ENCO	DDER TO C	ONFIRM				
ENCODER	S FADERS	PADS	BUTTON	١S			

- Expression Pedal Calibration:お使いのエクスプレッションペダルの動作が逆になってしまう場合は、ここで修正できます。ペダルの かかと側が完全に下がった 状態にし、メインエンコーダーを押します。次に、ペダルの つま先側を完全に踏み込んだ 状態にして、メインエンコーダーを押します。
- Aux Pedal Calibration:リアパネルの Aux In には、フットスイッチやコンティニュアスペダルを接続できます。これらのキャリブレーション (動作設定) 方法は、上記 (Sustain Pedal Calibration) をご覧ください。

↓ リアパネルのペダル端子はいずれも、フットスイッチまたはコンティニュアスペダルを接続できます。

### 5.4.1.3. MIDI Thru

このページでは、MIDI 端子と USB ポート間で MIDI メッセージを送受信するか、MIDI In で受信した MIDI メッセージをそのまま MIDI Out へ受け渡す (MIDI スルー) か、一方向でのみ受け渡すか、あるいはまった く受け渡さないかを設定します。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS
	MIDI THRU	SETTINGS	
MIDI IN (DI	N) TO USB		
USB TO MI	DI OUT (DIN)		
MIDI IN (DI	N) TO MIDI OU	T (DIN)	
APPLY MID	IFX		
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS

- MIDI In (DIN) to USB: オンにすると、MIDI In で受信した MIDI メッセージが USB ポート経 由で DAW やその他の USB デバイスに受け渡されます。
- USB to MIDI Out (DIN): オンにすると、USB ポートで受信した MIDI メッセージを MIDI Out から外部デバイスに受け渡します。
- MIDI In (DIN) to MIDI Out (DIN): オンにすると、MIDI Out 端子は MIDI Out としての機能に MIDI Thru (スルー)の機能が 加わります。
- Apply MIDI FX: MIDI エフェクト (ホールド、コード、スケール、アルペジエイター) によっ て生成された MIDI メッセージを MIDI Out から送信するかどうかを設定します。これは、す べての MIDI Thru 設定に適用されます。

#### 5.4.1.4. Pads Sensitivity

パッドの感度を3段階 (High、Medium、Low) から選択できます。演奏スタイルに合ったものをお選びください。

#### 5.4.1.5. Aftertouch Sensitivity

アフタータッチの感度を3段階 (High、Medium、Low) から選択できます。快適と思われるものをお選び ください。

### 5.4.1.6. DAW Protocol

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS			
	GLOBAL SETTINGS					
MIDI THRU						
PADS SENS	SITIVITY		MEDIUM			
AFTERTOL	ICH SENS.		HIGH			
DAW PROT	TOCOL		Live			
DISPLAY BI	RIGHTNESS		100			
SLEEP MODE			5 min.			
WELCOME	PAGE					
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS			

DAW コントロールは、以下の DAW に最適化したものを選択できます:

- Ableton Live
- Apple Logic Pro
- Bitwig Studio
- Image-Line FL Studio
- Steinberg Cubase

上記以外の DAW をお使いの場合は、次の汎用プロトコルが使用できます。

- Standard MCU
- Standard HUI

このパラメーターは、お使いの DAW を選択することで最高の互換性が得られます。お使いの DAW がプリ セットリストにない場合、おそらく MCU または HUI プロトコルのいずれかと互換性があります。お使い の DAW の取扱説明書などをご覧になり、2つのプロトコルのうちどちらを使用するのが最適化をご確認 ください。

#### 5.4.1.7. Display Brightness

使用環境や好みに合わせて、ディスプレイの明るさを調整できます。

#### 5.4.1.8. Sleep Mode

KeyLab mk3 を操作していない状態が一定時間経過すると、コンピュータのスクリーンセイバーのように スリープモードに入ります。このとき、すべてのコントロールが消灯します。ここでは、スリープモード に入るまでの時間を設定できます。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS			
	GLOBAL SETTINGS					
AFTERTOUCH SENS. HIGH						
DAW PROT	OCOL		Cubase			
DISPLAY BRIGHTNESS			100			
SLEEP MOI	DE	30 m	in. Vegas			
WELCOME	PAGE					
LOW POWE	R MODE					
ARP TOLERANCE						
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS			

Vegas Mode は、ボタンとパッドの点灯色が虹のように移ろいゆく特殊なモードです。

#### 5.4.1.9. Welcome Page

KeyLab mk3 の電源を入れると、Arturia、DAW、または User プログラムモードを選択するウェルカムページが開きます。

このページが便利だと思われる場合は、そのままにしておくことができます。あるいは、電源投入時にこのページが必ず開くのが煩わしいと感じられた場合は、このページをオフにすることで電源投入時にこのページが表示されないようにすることができます。その場合は、前回使用した User プログラムがロード されます。

#### 5.4.1.10. Low Power Mode

低電力モードをオンにすることができます。これにより、パッドとボタンの輝度が50%下がります。この モードは、KeyLab mk3 がパワーサプライで電源供給されているときにのみ使用可能です。

#### 5.4.1.11. Arp Tolerance

このパラメーターがオンの場合で、KeyLab mk3 が外部クロックに設定され、クロック信号を受信してい ない場合、または内部クロックに設定されている場合、キーボードでコードなどを押さえてからアルペジ オ演奏がスタートするまでの間に、同期を確実に取るために若干の時間差が生じることがあります。

#### 5.4.1.12. Factory Reset

KeyLab mk3 の各種設定をデフォルト値に戻したい場合は、これを選択します。その場合、デフォルト値 へ本当に戻すかどうかを確認するページが開きます。

#### 5.4.1.13. Firmware

KeyLab mk3 が現在使用しているファームウェアのバージョン番号を表示します。ファームウェアアップ デートがある場合は、Analog Lab または MIDI Control Center アプリケーションから行えます。

## 5.4.1.14. Serial Number and Unlock Code

KeyLab mk3 の製品登録はお早めにお願いいたします! このページには、お使いの KeyLab mk3 のシリ アルナンバーとアンロックコードが表示されます。また、KeyLab mk3 本体底面と梱包箱にもそれらを記 載したステッカーが貼ってあります。

シリアルナンバーとアンロックコードは、製品登録時に必要です。ステッカー部分が汚れて判読不能になったり、KeyLab mk3 が盗難に遭ってしまった場合に備えて、ステッカー部分を安全な場所に保管したり、写真に撮っておくことをお勧めします。

#### 5.4.2. Keyboard Settings - キーボード設定

このセクションには、キーボードと MIDI パートの設定に関するパラメーターがあります。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS		
KEYBOARD SETTINGS					
MIDI PARTS	5		>		
VELOCITY	CURVE		Global		
FIX VALUE			100		
AFTERTOU	CH CURVE		Global		
AFTERTOUCH MIN			0		
AFTERTOU	CH MAX		127		
AFTERTOUCH SENS.			HIGH		
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS		

#### 5.4.2.1. MIDI Parts

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS
	MIDI PART	SETTINGS	
PART TYPE			SPLIT
PART 1			
PART 2			
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS

• Part Type:マルチプリセットを作成したときにデフォルトで選択されるモードを Split (ス プリット)または Layer (レイヤー)のどちらかに選択します。

## 5.4.3. Velocity Curve

User プログラムのベロシティカーブは、グローバル設定のカーブを流用するか、独自のカーブを使用するかを、User プログラムごとに設定できます。

詳しくは、グローバルカーブ [p.50]をご覧ください。

## 5.4.4. Aftertouch Curve

User プログラムのアフタータッチカーブは、グローバル設定のカーブを流用するか、独自のカーブを使用するかを、User プログラムごとに設定できます。

詳しくは、グローバルカーブ [p.50]をご覧ください。

## 5.4.5. Aftertouch Minimum Value

アフタータッチ信号の最低値を設定できます。

## 5.4.6. Aftertouch Maximum Value

アフタータッチ信号の最高値を設定できます。

# 5.4.7. Aftertouch Sensitivity

アフタータッチの感度を演奏スタイルなどに合わせて調整できます。

この2つのページ (Part 1 Settings と Part 2 Settings) のパラメーター構成は同一です。設定を変更したい パートを選択してください。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS			
	PART 1 SETTINGS					
LOWEST K	EY		C-2			
HIGHEST K	EY		B2			
MIDI CHAN	INEL		1			
OCTAVE			0			
SEMITONE			0			
PITCH WH	EL					
MOD WHEEL						
× NCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS			

このページでは、そのパートの発音域 (Note Range)、MIDI チャンネル (MIDI Channel)、オクターブシフト (Octave)、トランスポーズ (Semitone) を設定できます。ここでの設定は、プリセット作成時のデフォルト設定値になります。

また、ピッチベンド (Pitch Wheel)、Mod ホイール (Mod Wheel)、アフタータッチ (Aftertouch)、サス テインペダル (Sustain)、エクスプレッションペダル (Expression)、AUX ペダル (Aux Pedals) のオン/オ フも設定できます。

さらに、MIDI エフェクト (Hold、Chord、Arp、Scale) のデフォルト状態も設定できます。

## 5.4.8. Wheels Settings in User Program - User プログラムでのホイール設定

このページでは、ピッチベンドホイールとモジュレーションホイールの動作を設定します。Settings ボタ ンを押し、Wheels のコンテクストボタンを押すとこのページに入ります。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS
	WHEEL SE	ETTINGS	
PITCH WH	EL		>
MOD WHEE	L		
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS

 Pitch Wheel: ピッチベンドホイールから送信する MIDI チャンネルと、このホイールを使用 するパートを Selected Part (選択したパート)、Both (両方)、パート1またはパート2のみ、 あるいは None (どちらのパートでも使用しない) から選択できます。  Mod Wheel:上記の Pitch Wheel と同様、このホイールから送信する MIDI チャンネルと、 このホイールを使用するパートを設定できます。Type は、Off、Control (モジュレーション、または MIDI CC)、RPN/NRPN に設定できます。RPN と NRPN の値の範囲も設定できます。

Mod ホイールや9個のエンコーダー、フェーダーには、RPN (レジスタード・パラメーター・ナンバー) または NRPN (ノンレジスタード・パラメーター・ナンバー) を送信するオプションがあります。これらのナンバーは、さまざ まなメイカーが独自のパラメーターを外部機器からコントロールできるようにするために使用できる番号です。お使い の機器がこれらのコマンドに適切に対応できるかどうかは、その機器のマニュアル等をご覧ください。

## 5.4.9. Pedals Settings in User Program - User プログラムでのペダル設定

User プログラムモードに入っている状態で、Settings ボタンを押し、Pedals のコンテクストボタンを押 すと、このページに入ります。

ここでは、KeyLab mk3 に接続したサステインペダル、エクスプレッションペダル、AUX ペダルの動作を 設定できます。

#### 5.4.9.1. Pedal Calibration

本マニュアルのペダルキャリブレーション [p.51]をご覧ください。

```
♪ ペダル端子はいずれも、フットスイッチなどスイッチタイプのペダルも、エクスプレッションペダルのようなコ
ンティニュアスペダルも接続できます。
```

#### 5.4.9.2. Edit Sustain/Exp/Aux Pedal Details - 各ペダルの詳細設定

3つのペダル端子はすべて、どのタイプのペダルでも使用できます。例えば、Sustain 端子にサステイン ペダルを接続すれば便利なのですが、この端子にエクスプレッションペダルを接続して使用することも自 由です。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS	
AUXILIARY INPUT SETTINGS				
PARTS			Part 2	
TYPE		Switche	Switched Control	
MIDI CHANNEL			Active	
OPTION			Toggle	
CC NUMBER			12	
OFF VALUE			0	
ON VALUE			127	
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS	

Parts:ペダルを使用するパートを Part 1、Part 2、Part 1+2、または no Part (どちらのパートにも使用しない) から選択できます。

- **Type**:接続したペダルの用途を Off (使用しない)、Control (コンティニュアス)、Switch (ス イッチ)、Note (ノート)、Program Change (プログラムチェンジ) から選択します。
- MIDI Channel: MIDI チャンネルを選択します。

上記の Type パラメーターで選択した設定によって、以下のパラメーターが設定できます。

- CC Number + Min and Max Values:接続したペダルから送信する MIDI CC とそのレンジ (上 限値と下限値)を設定します。
- **Option**:スイッチ動作を Gate (ペダルを踏んでいる間だけ動作する) または Toggle (ペダル を踏むたびにセッティングが切り替わる) のどちらかに設定します。
- Note: MIDI ノートを選択します。
- Program Number + Bank LSB/MSB:ペダルを踏んだときに送信される MIDI プログラムチェンジナンバーとバンクセレクトの下位ビット/上位ビットを設定します。

♪ Bank LSB:ペダルを踏んだときに送信されるバンクセレクトの下位ビット (MIDI CC# 32)の値を設定します。フィールドに 0-127 の値を入力することで設定できます。なお、必ずしもすべての機器が Bank LSB に反応するとは限りませんので、お使いのハードウェア/ソフトウェアインストゥルメントの取扱説明書等でご確認ください。

♪ Bank MSB:ペダルを踏んだときに送信されるバンクセレクトの上位ビット (MIDI CC# 0)の値を設定します。フィールドに 0-127の値を入力することで設定できます。なお、必ずしもすべての機器が Bank MSB に反応するとは限りませんので、お使いのハードウェア/ソフトウェアインストゥルメントの取扱説明書等でご確認ください。

## 5.4.10. Encoders Settings in User Program - User プログラムでのエンコーダ 一設定

ハードウェアでもソフトウェアでも、外部音源をコントロールするときに頼りになる相棒となるのが、 KeyLab mk3 のフロントパネル右側にある9個のエンコーダーと9本のフェーダーです。

Settings ボタンを押し、Encoders のコンテクストボタンを押すとこのページに入ります。

GLOBAL KEYBOARD WHEELS PEDALS ENCODER SETTINGS TOUCH SENSITIVE ENCODERS MAIN ENCODER	
ENCODER SETTINGS TOUCH SENSITIVE ENCODERS MAIN ENCODER	,
TOUCH SENSITIVE     Image: Constraint of the sense of the	
ENCODERS MAIN ENCODER	
MAIN ENCODER	
ENCODERS FADERS PADS BUTTON	S

#### 5.4.10.1. Touch Sensitive

9個のエンコーダーはタッチセンス式ですので、エンコーダーを回さずに触れただけで、そのエンコーダーの情報がディスプレイに表示されます。タッチセンスが**オン**の場合、エンコーダーに割り当てられているパラメーター名とその現在値、エンコーダーの向きが表示されます。

操作上の混乱を避けるために、メニューをエディットしているときはタッチセンスがオフになります。

#### 5.4.10.2. Editing Encoders - エンコーダーの動作設定

- Acceleration:エンコーダーを回したときに値が変化する速度を Slow、Medium、Fast から選択できます。このパラメーターの設定は、9個のエンコーダーすべてに共通して適用されます。
- Global Mode:エンコーダーの動作モードを選択します。
  - Absolute:エンコーダーから 0-127 の値が送信されます。KeyLab mk3 の電源 投入時には、エンコーダーの値が 0 に初期化されます。エンコーダーの現在値 が 127 に達していない場合、エンコーダーを右へ回すと値が上がり、現在値が 0 に達していない場合、エンコーダーを左へ回すと値が下がります。
  - Relative Main:エンコーダーの現在値からの差分を、例えば +1、+2、-1、-2 というように送信します。技術的には、0 は値 64 でコード化されますので、変 化分 +1 は値 65 になります。同じ理屈で、変化分 -2 は値 62 のメッセージとな ります。
  - Relative Alt 1: Relative Main と同様ですが、データが7ビットの2の補数でコード化される点が異なります。変化分0と正の値は Relative Main と同様ですが、負の変化分は-1が127、-2が126、-3が125というように処理されます。
  - Relative Alt 2: Relative Main と同じコード化をしますが、64の代わりに16を中心値に使用しますので、変化分0は値16としてコード化されます。変化分+1は値17を送信し、変化分-2は値14のメッセージとなります。

#### 5.4.10.3. 個々のエンコーダー設定

各エンコーダーやフェーダーの設定ページに入るクレバーなショートカットがあります。Settings ボタン を押しながら、設定したいエンコーダーまたはフェーダーをタッチするとその設定ページに入ります。

個々のエンコーダー設定ページは、エンコーダーの数と同様9ページあります (Encoder #1 - #9) が、パラ メーター構成はすべて同じです。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS
	ENCODER	SETTINGS	
ACCELERA	TION		Medium
GLOBAL MODE			Absolute
ENCODER #			
ENCODER #2			
ENCODER #3			
ENCODER #4			
ENCODER #5			
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS

- Name:エンコーダーの名前を設定します。
- Type:エンコーダーの動作を Off、Control、RPN/NRPN から選択します。
- CC Number/Option:上記の Type で Control または RPN/NRPN を選択した場合、このパラ メーターで MIDI CC ナンバーまたは RPN あるいは NRPN を設定できます。

♪ RPN と NRPN につきましては、こちら [p.57]をご覧ください。

- MIDI Channel: MIDI チャンネルを設定します。
- Mode:エンコーダーのモードを選択します。
  - Global:グローバル設定を流用します。以下の設定を選択したときは、その設定に切り替わります。
  - Absolute:エンコーダーから 0-127 の値が送信されます。KeyLab mk3 の電源 投入時には、エンコーダーの値が 0 に初期化されます。エンコーダーの現在値 が 127 に達していない場合、エンコーダーを右へ回すと値が上がり、現在値が 0 に達していない場合、エンコーダーを左へ回すと値が下がります。
  - Relative Main: エンコーダーの現在値からの差分を、例えば +1、+2、-1、-2 というように送信します。技術的には、0 は値 64 でコード化されますので、変 化分 +1 は値 65 になります。同じ理屈で、変化分 -2 は値 62 のメッセージとな ります。
  - Relative Alt 1: Relative Main と同様ですが、データが7ビットの2の補数でコード化される点が異なります。変化分0と正の値は Relative Main と同様ですが、負の変化分は-1が127、-2が126、-3が125というように処理されます。
  - Relative Alt 2: Relative Main と同じコード化をしますが、64の代わりに16を中心値に使用しますので、変化分0は値16としてコード化されます。変化分+1は値17を送信し、変化分-2は値14のメッセージとなります。
- Min/Max Value: Type を Control に設定した場合、このパラメーターで MIDI CC の値の下限 値と上限値を設定できます。

または

 MSB/LSB: Type で RPN/NRPN に設定した場合、LSB (下位ビット) と MSB (上位ビット)の 値をここで設定できます。 ♪ LSB と MSB につきましては、こちら [p.58]をご覧ください。

# 5.4.10.4. エンコーダーのデフォルト値

User プログラムに入ったときのエンコーダー 1-9 の MIDI CC (コントロールチェンジ) ナンバーのデフォル ト値は、下表の通りです:

エンコーダー	сс
1	74
2	71
3	76
4	77
5	93
6	18
7	19
8	16
9	17

## 5.4.10.5. Main Encoder

このページでは、メインエンコーダーの加速度 (Acceleration) と名称 (Name) などを設定できます。

このページへの便利なショートカットがあります。Settings ボタンを押しながらメインエンコーダーを押 すか回すと、このページに入ります。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS		
MAIN ENCODER SETTINGS					
ACCELERA	TION		Medium		
NAME		Mai	n Encoder		
MAIN ENCODER TWEAK					
MAIN ENCODER CLICK					
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS		

- Main Encoder Tweak:メインエンコーダーの MIDI CC ナンバーと MIDI チャンネルを設定 します。この設定は、User プログラムモードに入っているとき、かつ、メニューのエディッ トをしていないときにのみ動作します。
- Main Encoder Click:メインエンコーダーのオン/オフ切り替えや、MIDI CC の値と MIDI チャンネル、Gate または Toggle モード、値の最低値と最高値を設定します。この設定は、User プログラムモードに入っているとき、かつ、メニューのエディットをしていないときにのみ動作します。

## 5.4.11. Faders Settings in User Program

9本のフェーダーは、外部音源のコントロールに非常に便利です。9個のエンコーダーとともに、あたか も外部音源のパネルを直接操作しているかのようにコントロールすることができます。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS			
	FADER SETTINGS					
TOUCH SER	ISITIVE					
FADERS						
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS			

お使いの外部音源のパラメーター構成と、KeyLab mk3 のエンコーダーとフェーダーとの関係について一 考されることをお勧めします。例えば Analog Lab の場合、フィルター (カットオフ) はほぼ常にエンコー ダー1に、ディレイのパラメーターはエンコーダー7に、エンベロープのアタックはフェーダー5に、マス ターボリュームはエンコーダー9というようにマッピングされています。



#### 5.4.11.1. Touch Sensitive

フェーダーはタッチセンス式ですので、フェーダーを動かさずに触れただけでそのフェーダーに関する情報が表示されます。タッチセンスが**オン**の場合、そのフェーダーで操作するパラメーター名、その値、フェーダーの現在値が表示されます。

操作上の混乱を避けるために、メニューをエディットしているときはタッチセンスがオフになります。

#### 5.4.11.2. 個々のフェーダー設定

各エンコーダーやフェーダーの設定ページに入るクレバーなショートカットがあります。Settings ボタン を押しながら、設定したいエンコーダーまたはフェーダーをタッチするとその設定ページに入ります。

個々のフェーダー設定ページは、フェーダーの数と同様9ページあります (Fader #1 - #9) が、パラメータ ー構成はすべて同じです。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS	
FADER #7 SETTINGS				
NAME			Distort	
TYPE			Control	
CC NUMBER			82	
MIDI CHANNEL			Active	
MIN VALUE			32	
MAX VALUE			93	
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS	

- Name:フェーダーの名前を設定します。
- Type:フェーダーの動作を Off、Control、RPN/NRPN から選択します。
- CC Number/Option:上記の Type で Control または RPN/NRPN を選択した場合、このパラ メーターで MIDI CC ナンバーまたは RPN あるいは NRPN を設定できます。

♪ RPN と NRPN につきましては、こちら [p.57]をご覧ください。

- MIDI Channel: MIDI チャンネルを設定します。
- Min/Max Value: Type を Control に設定した場合、このパラメーターで MIDI CC の値の下限 値と上限値を設定できます。

または

• **MSB/LSB**: Type で RPN/NRPN に設定した場合、LSB (下位ビット) と MSB (上位ビット) の 値をここで設定できます。

♪ LSB と MSB につきましては、こちら [p.58]をご覧ください。

User プログラムに入ったときのフェーダー 1-9 の MIDI CC (コントロールチェンジ) ナンバーのデフォルト 値は、下表の通りです:

フェーダー	cc
1	73
2	75
3	79
4	72
5	80
6	81
7	82
8	83
9	85

## 5.4.12. Pad Settings in User Program - User プログラムでのパッド設定

パッドは、キーボードに代わる直感的な操作が行えます。また、プログラム可能ですので、MIDI ノートをアフタータッチ込みで演奏したり、ドラムサウンドのトリガーに使用したり、プログラムチェンジを送信したり、その他の MIDI メッセージ送信で便利に使用できます。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS	
PAD SETTINGS				
PADS SENS	ΒΙΤΙνΙΤΥ		MEDIUM	
PAD GENER	AL SETTINGS			
PAD BANK	A			
PAD BANK B				
PAD BANK C				
PAD BANK	D			
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS	

#### 5.4.12.1. Pad Sensitivity

パッドの感度は Low、Medium、High の3段階です。使い心地の良い設定を選択してください。なお、この設定はグローバル設定と強固にリンクしています。
このページでは、パッドの ベロシティカーブ などを設定します。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS			
PAD GENERAL SETTING						
VELOCITY CURVE			Global			
FIX VALUE			127			
AFTERTOUCH CURVE			Global			
AFTERTOUCH MIN			0			
AFTERTOUCH MAX			127			
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS			

- Linear:パッドを優しくタップすると低いベロシティ値が送信され、強く叩くと高いベロシ ティ値を送信します。いわば、タッチに応じて最も素直に反応するカーブです。
- Logarithmic:弱めのタッチでも高いベロシティ値を比較的容易に出力します。弱いタッチの段階でベロシティ値が急激に高くなり、強いタッチになるほどベロシティの変化が鈍くなるカーブです(ログカーブ)。
- Exponential:上記のログカーブとは対照的なエクスポネンシャルのカーブです。弱いタッチの段階ではベロシティ値の上昇は緩慢で、ある地点からベロシティ値が急激に高くなるカーブです。
- Fixed:タッチの強弱に関係なく、一定のベロシティ値を出力します。
- Custom: グローバル設定ページの Custom Curves でベロシティカーブを自在に作成できます。
- Pad Aftertouch:上記のパッドベロシティと同様に、パッドのアフタータッチの動作を設定 できます。なお、このパラメーターには Fixed オプションはありません。
- Aftertouch Mix/Max:アフタータッチの下限値と上限値を設定します。例えば、モジュレ ーションが必要以上にかからないようにしたい場合に便利です。

### 5.4.12.3. Pad Bank A-D

このセクションには、A-D の4つのメニューがあり、それぞれのパラメーター構成は同じです。また、各 メニューには12個のパッドに対応する12のサブメニューがあります。

各バンクの各パッドの正しいページにアクセスできるクレバーなショートカットがあります。Settings を 押しながら、パッドをタップするだけでそのページに入ることができます。間違ったバンクに入ってしま ったときは、Settings を押しながら Bank- または Bank+ ボタンを押し、最後にエディットしたいパッド をタップします。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS		
PAD SETTINGS					
PADS SENSITIVITY			MEDIUM		
PAD GENERAL SETTINGS					
PAD BANK A					
PAD BANK B					
PAD BANK C					
PAD BANK D			>		
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS		

- Colour:ここを押すと選択したパッドバンクのグローバルカラー (点灯色)を選択します。も う一度押すと選択が確定します。
- Name: パッドの名前を設定します。
- Colour:一般的なバンクの点灯色を使用するか、カスタムカラーを設定します。点灯色は メニューから選択します。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS		
PAD #12 - D SETTINGS					
NAME			Pad 12		
COLOUR			Custom		
CUSTOM COLOUR					
TYPE			Note		
NOTE			D#4		
MIDI CHANNEL			Ch. 10		
OPTION			Gate		
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS		

- Type:パッドの動作モードを Off (使用しない)、Note (MIDI ノートを送信)、Switch (MIDI CC を送信)、Program Change (プログラムチェンジを送信) から選択します。Note、Switch、Program Change を選択した場合は、ノートナンバー、MIDI CC ナンバー、プログラムナンバーをその下の行で設定します。
- MIDI Channel: MIDI チャンネルを設定します。

上記の Type で選択した内容によって、以下のパラメーターでその詳細を設定します。

- Note: MIDI ノートナンバーを設定します。
- **Option**:スイッチの動作を Gate (パッドを押している間だけ動作) または Toggle (パッドを 押すたびに動作) に設定します。
- CC Number + Min and Max Values: MIDI CC ナンバーとその下限値、上限値を設定しま す。

- Switch:Gate (パッドを押している間だけ動作) または Toggle (パッドを押すたびに動作) を 選択します。
- On/Off Values:パッドを押したときの値と、放したときの値を設定します。
- Program Number + Bank LSB/MSB: MIDI プログラムチェンジナンバーとバンクセレクトのLSB (下位ビット)/MSB (上位ビット) を設定します。

♪ LSB と MSB につきましては、こちら [p.58]をご覧ください。

### 5.4.13. User Buttons in User Program - User プログラムでの User ボタンの 設定

ディスプレイの下にある4つのボタンには、さまざまな機能を割り当てることができます。Button Settings ページの4つのメニュー (Display Button 1-4) のパラメーター構成は同じです。

ディスプレイ下のボタン設定に正しくアクセスできるクレバーなショートカットがあります。Settings を 押しながら機能を設定したいコンテクストボタン (ディスプレイの下側4つのいずれか)を押すと、そのボ タンの設定メニューに入ります。

GLOBAL	KEYBOARD	WHEELS	PEDALS		
<b>BUTTON SETTINGS</b>					
DISPLAY B	UTTON 1		>		
DISPLAY BU	JTTON 2				
DISPLAY BUTTON 3					
DISPLAY BUTTON 4					
ENCODERS	FADERS	PADS	BUTTONS		

- Name:ボタンの名前を設定します。
- Colour:ここを押してボタンの点灯色を選択します。もう一度押すと選択を確定します。
- Type:ボタンの動作モードをOff(使用しない)、Switch (MIDI CC を送信)、Program Change (プログラムチェンジを送信)から選択します。選択した内容によって、その下の行で MIDI CC ナンバーやプログラムナンバーなどの詳細を設定します。
- MIDI Channel: MIDI チャンネルを設定します。

上記の Type で選択した内容によって、以下のパラメーターでその詳細を設定します。

- **Option**:スイッチの動作を Gate (ボタンを押している間だけ動作) または Toggle (ボタンを 押すたびに動作) に設定します。
- Mix and Max Values:送信する値の下限値と上限値を設定します。
- **Program Number + Bank LSB/MSB**: MIDI プログラムチェンジナンバーとバンクセレクト LSB/MSB を設定します。

↓ LSB と MSB につきましては、こちら [p.58]をご覧ください。

# **6. MIDI CONTROL CENTER**

KeyLab mk3 は、使用頻度の高いコントロールにすぐにアクセスできるように設計されており、フロント パネルでの操作でその設定を素早く簡単にエディットできますが、そうした設定をコンピュータから行え るもう1つの手段が、MIDI Control Center (MCC) です。



KeyLab mk3 本体に保存できる User プログラムは6つまでですが、MCC を使用すれば遥かに多くの User プログラムを保存し、呼び出すことができます。

KeyLab mk3 がコンピュータに接続されている場合、MCC を使用して、使用するソフトウェアやインストゥルメントに合わせてプリセットを作成することができます。

KeyLab mk3 用 MIDI Control Center の機能は現在、最終調整中です。近日中に、より詳細な情報を記載 したマニュアルのアップデートが行われる予定です。

# 6.1. MIDI Control Center への接続

MCC をダウンロードしてインストールしましたら、KeyLab mk3 をお使いのコンピュータに接続して、MCC を開きます。

すると MCC が自動的に KeyLab mk3 と接続し、MCC のメイン画面に KeyLab mk3 が表示されます。

♪: コンピュータに複数の Arturia デバイスをお使いの場合は、エディットしたいデバイスを MCC の Device セクシ ョンにあるドロップダウンメニューから選択できます。

これで KeyLab mk3 が MCC と接続し、選択されている状態になりました。KeyLab mk3 をよりパーソナ ルなものにできるシンプルな方法をいくつか見ていきましょう。

## 6.1.1. デバイスメモリー

MCC のデバイスメモリー (Device Memory) セクションには、KeyLab mk3 本体にメモリーされている6 つの User プリセットの内容を反映した6つのメモリーが表示されます。これらに加えて、Analog Lab と DAW モード用の読み出し専用のメモリーが2つ表示されます。

- Analog Lab: このメモリーは、Analog Lab で KeyLab mk3 を使用するためのもので、内容 を変更できない読み出し専用のメモリーです。
- DAW:レコーディングソフト (DAW) を KeyLab mk3 で操作するためのメモリーで、内容を 変更できない読み出し専用のメモリーです。
- User 1-6: KeyLab mk3 本体内にメモリーされている User プリセット 1-6 に対応するメモリ ーです。用途に合わせて自由にカスタマイズすることができます。
- Store to: MCC で選択しているテンプレートを KeyLab mk3 に保存するための機能です。
- Recall from: KeyLab mk3本体内にメモリーされている User プリセットを選択して MCC に 転送してエディットするための機能です。エディットしたメモリー (User プリセット) は、コ ンピュータ内に保存できるほか、KeyLab mk3本体の User プリセットとして直接保存する こともできます。

# 6.1.2. ローカルテンプレート

ローカルテンプレート (Local Template) セクションでは、KeyLab mk3 本体から User プリセットを呼 び出したり、KeyLab mk3 本体に保存したりせずに、User プリセットのエディットや管理が行えます。ま た、Arturia ユーザーコミュニティで作成されたコントロールマッピングをロードするときにも使用しま す。

- Factory templates:このセクションには、KeyLab mk3 のデフォルト設定が表示され、 User プリセット作成の出発点として利用したり、プリセットを「初期化」したいときなどに 便利です。
- User templates:このセクションには、KeyLab mk3 本体からコンピュータに読み込んだ User プリセットが表示されます。また、他の KeyLab mk3 ユーザーが作成した User プリセ ットを MCC にインポートした場合、それらもこのセクションに表示されます。
- Save:エディットした User テンプレートを保存します。
- Save As: 選択している User テンプレートに別の名前をつけて保存します。
- New:デフォルト設定の User テンプレートを新規作成します。
- Delete:選択している User テンプレートを削除します。
- Import:作成済みの User テンプレートをインポート (読み込み) します。このコマンドを選 択するとファイルブラウザが開き、インポートしたいファイルを選択して Open をクリック するとインポートします。
- Export:User テンプレートを任意の場所にエクスポート (ファイル書き出し) します。この コマンドを選択するとファイルブラウザが開き、ファイルとして保存するテンプレートに名 前をつけ、保存先を指定できます。

# 6.2. MCC コントローラーマップ

MCC の画面左上には **ControllerMap** と書かれたタブがあります。ここでは、KeyLab mk3 のパッドやエンコーダー、フェーダーやキーボード、ペダル端子の機能をカスタマイズすることができます。カスタマイズした内容は、KeyLab mk3 本体の6つの User プリセットの1つに保存できます。

エディットしたいパラメーターを選択するには、フロントパネルやリアパネルのグラフィックからエディ ットしたい部分をクリックします。

📘 ♪: トランスポートセクションなど、一部の KeyLab mk3 のコントロールはカスタマイズできません。

Controller Map タブで利用可能なすべてのコントロールは、デバイスメモリーとして KeyLab mk3 にイン ポートすることができ、Device Settings タブ (画面右上) では KeyLab mk3 のすべてのグローバルパラメ ーターを設定できます。

Device Settings の内容をエディットすると、その変更が即座に KeyLab mk3 上に反映されます。

## 7.1. FCC

#### 警告:本製品を改造しないでください!

Arturia 社および輸入代理店による承認がない本製品のいかなる改造やその他の変更を行った場合は、本 製品を使用するユーザーの権限が無効になることがあります。

本製品は、FCC 規則第15章に準拠しています。本製品は、以下の2つの条件、(1)本製品は有害な干渉を 引き起こさないこと、(2)本製品は、望ましくない動作を引き起こす可能性がある干渉を含め、受信した あらゆる干渉を受け入れなければならいこと、に従って動作します。

アメリカ合衆国における担当機関: Zedra, 185 Alewife Brook Parkway, #210, Cambridge, MA 02138, United States T: +1 857 285 5953

商号:ARTURIA、製品番号:KeyLab mk3

注意:本製品は、FCC規則第15章に従ってクラスBデジタル機器の規制値に適合していることが試験によ り確認されています。この各種規制値は、本製品を一般家庭で使用する際に生じる有害な障害に対して合 理的な保護となるよう策定されています。本製品は、無声周波数帯域のエネルギーを発生し、使用し、放 射することがあります。また、本製品のユーザーズ・マニュアルに従わずに本製品を設置し、使用した場 合は、他の電子機器に有害な干渉を及ぼす原因となる場合があります。本製品の電源をオンにしたりオフ にしたりすることで、本製品がそのような有害な干渉を及ぼす原因であると確認された場合には、次のよ うに対処してください:

- 受信アンテナの位置を変更する、またはアンテナの向きを変える。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器との距離を広げる。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける。
- 本製品の購入店、またはラジオ/テレビ等電波機器の技術者にご相談ください。

## 7.2. カナダ

本製品は、カナダでの EMC 規制 ICES-003 に適合したクラス B デジタル機器です。

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada

## 7.3. CE

本製品は、電磁両立性に関する加盟各国の法律に近似する欧州理事会の EMC 指令 2014/30/EU、および 低電圧指令 2014/35/EU の規制値に適合していることが試験により確認されています。

## 7.4. ROHS

本製品は、鉛フリーはんだを用いて製造されており、ROHS 指令 2011/65/EU の要求事項を満たしていま す。



このマークは、電気・電子機器の廃棄時に、一般家庭用廃棄物として処分してはならないことを示すもの です。本製品は、国内法および指令 2012/19/EU (WEEE:電気・電子機器廃棄物に関する指令) に従っ て、適切な処理、回収、リサイクルを行うために、電気・電子機器のリサイクル用回収拠点に引き渡す必 要があります。

これらの製品の回収場所やリサイクルにつきましては、お住まいの地域の自治体、家庭ごみ処理業者、または製品を購入された販売店にお問い合わせください。

# 8. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンシー料 (お客様が支払ったアートリア製品代金の一部) により、アートリア社はライセンサーとし てお客様 (以下 "ライセンシー") に PolyBrute Connect (以下 "ソフトウェア") のコピーを使用する非独占 的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社 (以下 "アートリア") に帰属します。アートリアは、 本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用するこ とを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEM ソフトウェアの使用はレジストレーション完了後にのみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユ ーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストール することによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。こ れらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製 品(すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ)を、購入日から30日以内にご購入いた だいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 ライセンシーは、ソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権 を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメ ディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルの ソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 ライセンシーは、ソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時期に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。ライセンシーは、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用に助した金利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保 護するためのライセンス・コントロールとして OEM ソフトウェアによる強制アクティベーションと強制 レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動 作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内 であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下の サポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バ ージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート (ホットライン、ウェ ブでのフォーラムなど) の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分 的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後に インターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的の ために個人データの保管、及び使用(氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど)に同意 するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、 またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になって います。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場 合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。ライセンシーは、ソフ トウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな 製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざん するすることはできません。 6. 権利の譲渡と著作権 ライセンシーは、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) ライセンシーは、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアッププートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) ライセンシーが本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) ライセンシーが有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。ソフトウェアライセンス 本契約の条件に同意されなかったことによる製品の返品。本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却(製品のアクティベーションなど)は、権利譲渡後はできません。 権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の 複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、ライセンシーが負 うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当 該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要がありま す。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップ グレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソ フトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの 権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディス クに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたしま す。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続 期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アー トリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プロ グラムの性能、品質によるすべての危険性はライセンシーのみが負担します。プログラムに瑕疵があると 判明した場合、ライセンシーが、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のい ずれかになります。ライセンシーがこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収 書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起 因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間 か30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者または スタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の 範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接 的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む)について、アートリアが当該損害を示唆し ていた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随 的損害に対する責任の排除について認めていない場合があり、上記の限定保証が適用されない場合があり ます。本限定保証は、ライセンシーに特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も 行使することができます。